
仮面ライダーヤイバ

ターザン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーヤイバ

【コード】

N0110P

【作者名】

ターザン

【あらすじ】

世界征服を企む組織・プロト、世界を救うため新しい戦士が立ち上がる。

EP1 雷男(前書き)

仮面ライダーヤイバ!!

ついにスタート!!

EP1 雷男

地底、ここに恐ろしい組織「プロト」が誕生した。

幹部 モグル

モグル「おいおい、一体人間って何なんだ？」

女幹部 カース

カース「力無きクスよ、生きてる意味のないね。」

大幹部 マダラ

マダラ「我が下部達よ!!」

モグル「マダラ様!!」

カース「首領復活の計画はいかなものでしょう?」

マダラ「順調だ、後はプロジェクトY・・・雷の力を加えれば首領の封印は解ける。」

カース「そのためには雷と相性の良い生け贄が必要ですね。」

モグル「世界はプロトの物となるのだ!!」

しかしあるプロトの一員がアタッシェケースを持ち組織を抜け出した。

.....

警察「やめろ!!!人質なんて卑怯だぞ!!!」

その頃、街では銀行強盗が現れ人質をとっていた。

強盗「へへ!!!早く車を用意しろ!!!」

????「これはどうにかしないと!!!」

青年がなんと強盗に立ち向かった。

警察「おい!!!やめろ!!!」

強盗「来るなあああ!!!」

????「おりゃあああ!!!」

.....

警察「午後12時5分、銀行強盗確保しました!!!」

????「大丈夫!？」

人質「はい、ありがとうございます。」

そこに警察が

警察「君!!!何故あんな危険な事を!？」

青年「だってこの人が傷ついたら、この人を大切に思ってる人が悲しむから。」

警察「・・・君名前は？」

青年「あつ、武藤蒼牙です。」

警察「私は榊原だ、今回はありがとう。」

榊原は蒼牙に握手を求める。

蒼牙「はい!!」

バチツ!!

榊原「うわっ!?!」

蒼牙「あつ、すみません!!僕静電気たまりやすくして!!大丈夫ですか!?!」

バチツ!!

榊原「痛い痛い!!わかったから近づくな!!」

その時蒼牙は気づいていなかった、ある女が自分を観察しているのを。

.....

EP1 雷男

蒼牙「ああ、この静電気どうにかなんないかな・・・ドアノブ握るのも怖いし、人に近づけないし、冬場なんかさらにバチバチだし。」

ドンッ！！

蒼牙は女とぶつかってしまった。

蒼牙「うわっ！？すみません！！」

女「あつ、私こそすみません。」

蒼牙は女をじつと見る。

女「あの・・・何か？」

蒼牙「あつ・・・いや、なんでも（凄い美人だなあ）。」

女は立ち去り蒼牙もその場を離れる。

女「あの人・・・もしかしたら・・・」

すると突然サングラスをかけた男達が女を囲んだ。

女「なつ・・・あなた達！？」

サングラスの男「裏切り者は始末する。」

男達の体は突然様々な色に染まりその色をした怪人になった。

「きゃああああ!?!」

蒼牙「今の声・・・さっきの!?!」

蒼牙は慌てて先ほどの場所に走る、すると先ほどの女が怪人達に襲われていた。

蒼牙「なっ、何だあれ!?!」

女「く・・・あっ・・・」

女はみるみる怪人に首を締め上げられる。

蒼牙「やめろ!?!」

蒼牙は怪人につかみかかる。

怪人「何だ貴様。」

蒼牙「やめろ!?!死んじゃうだろ!?!」

すると他の怪人が蒼牙を投げ飛ばす。

蒼牙「うわあ!?!」

そして女も投げ飛ばされた。

女「ゲホ!?!ゲホ!?!」

蒼牙「大丈夫!？」

怪人が女の持っていたアタツシエケースを拾い上げる。

怪人「返して貰うぞ。」

そして女が口を開く。

女「どうして……戻ってきたの？」

蒼牙は当たり前のように答える。

蒼牙「だって……君が死んだら、君を大切に思ってる人が悲しむから。」

女「!……あなた名前は!！」

蒼牙「武藤蒼牙。」

女はポケットに手を入れる。

女「蒼牙、これをあなたに与えるわ。」

女が取り出したのは何やらバツクルのような物だった。

怪人「ばっ、馬鹿な!？」

怪人は慌ててアタツシエケースを開けると「残念賞」とかかれた紙が入っていた。

怪人「貴様ああああ!!」

蒼牙「何？」

女「あなたなら必ず出来るわ。」

女は蒼牙の手を握る、当然静電気が流れる。

女「痛っ!？」

蒼牙「ちよつと!？」

女「お願い!!・・・私を信じて!!」

蒼牙は一瞬戸惑ったが女の必死な目を見て決意した。

蒼牙「君も・・・俺を信じてくれる？」

女「あなたが戦うなら私は信じるわ。」

その時蒼牙の手から電流が集まった、そして電流は長方形の棒になり中央には赤い宝石がはめ込まれていた。

怪人「なっ!？」

蒼牙「これは？」

女「それをバツクルにはめて腰にあてて!!」

蒼牙は言われた通りにするとバツクルから電流が走りその電流がべ

ルトになった。

蒼牙「これは何だ!?!」

女「早く変身して!!」

蒼牙「へっ、変身!?!ってあの変身!?!」

怪人「貴様何者だ!!」

蒼牙「わかんないよ!!だああああもおおおおやけくそだあ!!
変身!!」

「change!!YAIIBA!!」

蒼牙はベルトにはめた棒を横に倒すと体が強力な電流に包まれる、
そして緑色の装甲に赤い複眼、黄色い3本の角の姿になった。

女「やった!!」

怪人「貴様その姿は!?!」

蒼牙「なっ、何だよこれえええ!?!」

そう驚いていると怪人が襲いかかってきた。

怪人「死ね!!」

蒼牙「うわあ!?!」

その攻撃をかわし体制を整えて怪人に殴りや蹴りで応戦していく。

蒼牙「何だこれ！？力が溢れてくる！！」

しかし怪人は武器を取り出し形勢逆転を狙う。

蒼牙「うわっ！？だあ！？」

蒼牙は斬りつけられた、すると女が

女「ベルトについてるのを使って！！」

蒼牙「へ？これか・・・」

蒼牙はベルトについている青い宝石のついた棒を丁字の形をした物に取り付けた、すると剣が伸びた。

蒼牙「おお！？剣だ！！」

怪人「なんだとお！？」

蒼牙は怪人を切り捨てていき何体か倒し残りは一体になった。

怪人「はあ！！」

蒼牙「だあ！！」

その怪人は他の怪人より強く、剣と剣の押し合いになった。

怪人「貴様！！何故邪魔する！！」

女「・・・凄い力、完全に使いこなしてる。」

蒼牙はベルトを外し変身を解いた、その手は震えていた。

蒼牙「はぁ・・・はぁ・・・」

蒼牙はゆっくりと女の方を見る。

蒼牙「君は・・・誰なの？」

女「私は・・・アイリ。」

K A M E N
R I D E R
Y A I B A

n e x t e p i s o d e
...

EP1 雷男（後書き）

次回、仮面ライダーヤイバ

アイリ「世界のために戦ってください!!」

蒼牙「俺には・・・無理だ。」

榊原「お前は何故あの時人質を助けた!？」

怪人「無駄だ、諦めろ。」

蒼牙「覚悟しろ!!今日がお前の命日だ!!」

仮面ライダーヤイバ データ

仮面ライダーヤイバ

- ・ 武藤蒼牙が変身ベルト、ヤイバスパーカーで変身する雷のライダー
- ・ 複眼は赤
- ・ モチーフは仮面ライダー新1号
- ・ 額に赤い宝石を中心に三本の黄色い角
- ・ 装甲は緑色、赤いマフラーをしている

ヤイバスパーカー

- ・ 仮面ライダーヤイバに変身するためのアイテム
- ・ ヤイバスティックを取り付け横に倒す事で変身できる

スパークブレード

- ・ 青い宝石の棒ダッシュスティックをT字の握り手に取り付ける事で出現する剣

必殺技

1、ライダーキック

雷のパワーを右足にためて空中回転し繰り出す必殺技

2、ライダーパンチ

雷のパワーを右拳にためて繰り出す必殺技

3、ライダースラッシュ

雷のパワーをスパークブレードにためて相手を切り捨てる必殺技

他にも様々な能力を持つ

EP2 決意（前書き）

仮面ライダーヤイバ！！前回のあらすじ！！

悪の組織プロトが誕生！！

マダラ「世界はプロトの物だ！！」

一般の静電気青年、武藤蒼牙が謎の女、アイリに出会う！！

蒼牙「あっ、すみません！！」

アイリ「いえ、こちらこそ・・・」

そして、静電気青年の武藤蒼牙がヤイバに変身した。

蒼牙「だあああああもおおおおやけくそだああ！！変身！！」

果たして今回蒼牙を待ち受ける物は！？

EP2 決意

蒼牙は困惑した、今自分が姿を変えて怪人を倒した事に。

蒼牙「今は・・・一体・・・」

アイリが口を開く。

アイリ「今はヤイバ・・・プロト首領の復活の鍵であり、プロト壊滅の鍵でもある。」

蒼牙はアイリにつかみかかる。

蒼牙「一から説明してよ!!ヤイバって何!?プロトって何なの!」

アイリ「落ち着いて蒼牙!!」

????「じらっ!!」

そこに警察の榊原が現れた。

榊原「君はさっきの武藤君だったね、見させてもらったよ。」

蒼牙「榊原さん・・・」

榊原はヤイバの戦いを見ていた。

榊原「交番に来なさい、今なら俺以外いないから・・・それと君も

だ。」

アイリ「はい。」

交番・・・

アイリ「プロト・・・人類を滅亡させて世界征服を企む悪の組織、私もその一員だった。」

榊原「だった？」

アイリ「はい、私はプロトを裏切り、ヤイバの力の使い手を探しました。」

蒼牙「それが・・・俺？」

アイリ「そう、さっきも言ったようにヤイバの力はプロトの首領の復活の鍵であり、プロト壊滅の鍵でもあるの、だから世界のために戦ってください！」

蒼牙「嫌だ・・・」

アイリ「え？」

アイリは呆然とした。

榊原「おい武藤、何を・・・」

蒼牙「無理なんですよ!!!・・・俺には・・・」

.....

「そつちやああああああん!!」

「紗耶香あああああああ!!」

.....

蒼牙「たった一人の大切な人を救えなかった俺に!!...世界が救えるはずないじゃないですか!!...俺には...無理だ。」

蒼牙はその場を立ち去った。

アイリ「蒼牙!？」

榊原「...仕方ないさ、いきなり非現実的な事を突きつけられたんだから。」

アイリ「非現実的?」

榊原「そうだろう?ヤイバとか世界征服だとか怪人とか...俺は君の話はわかったけど、あいつの事はさっぱりだからな。」

アイリ「...」

.....

EP2 決意

モグル「ヤイバが誕生したみたいだ。」

カーズ「なら早くその力を手に入れないと。」

マダラ「なあに、手はうってある。」

.....

蒼牙は海岸にいた。

蒼牙「世界を・・・か。」

石ころを海に向かって投げた。
そこに榊原が現れた。

榊原「武藤、何やってんだ？」

蒼牙「榊原さん。」

榊原「自分に自信が持てないのか？」

蒼牙「そうじゃなくて・・・守れっこないんですよ、俺に」

蒼牙は拳を握りしめる。

榊原「お前の過去に何があつたか知らんが・・・アイリはお前の事が必要みたいだったぞ？」

蒼牙「.....」

すると榊原の携帯が鳴った。

榊原「榊原だ・・・何！？怪人が街に！？」

蒼牙「！？」

連絡は街にいきなり怪人が現れ人々を襲っているというものだった。

榊原「武藤・・・お前行かないのか？」蒼牙「だからさっき言ったじゃないですか！？俺にはできっこないって・・・」

すると榊原は蒼牙の胸ぐらをつかみだした。

榊原「では何故お前はあの時人質を助けた！？」

蒼牙「え・・・」

榊原「お前は言ったな、あの人を大切に思っている人を悲しませたくないって・・・今こうしている間にもその人達が悲しんでいるのがわからんのか！？」

蒼牙「！」

榊原「俺は先に行く、後は自分で何とかしろ。」

榊原は車で街に向かった。

蒼牙（こうしてる間にも・・・沢山の人達が・・・）

そこにアイリが駆けつけた。

アイリ「蒼牙！！」

蒼牙「アイリ……」

アイリ「あなた、どうするの?」

蒼牙「俺は……」

……

「そっちゃん、いつもありがとう。」

「大した事じゃないよ。」

「でもありがとう。」

……

蒼牙の目つきが変わった。

蒼牙「俺……戦う。」

アイリ「蒼牙。」

するとアイリは奇妙な携帯を取り出しボタンを押した。
するとマイバをモチーフにしたバイクが現れた。

蒼牙「バイク!?!」

アイリ「これを与えるわ、行きましょう!?!」

アイリはヤイバスパーカーを蒼牙に差し出す。

蒼牙「ああ!!」

蒼牙はヤイバスパーカーを手にとりバイクで街に向かった。

.....

榊原「どこだ怪人は!!」

警察「榊原警部!!それが・・・うわあ!?!」

榊原「なんだ!?!」

街では何かが素早く動き街を破壊していた。

榊原「速い!?!」

榊原は拳銃を構えるが捕らえられない。

そして怪人は榊原を襲った。

榊原「ぐわあ!?!」

怪人が榊原に留めをさそうとしたその時、蒼牙がバイクで怪人をぶつ飛ばした。

榊原「武藤!?!」

蒼牙「アイリ!!榊原さんを安全な所に!!」

アイリ「わかったわ!!」

アイリが榊原を運びだす、そして

榊原「武藤、覚悟したんだな。」

蒼牙「はい。」

蒼牙は手から電流を放ちヤイバスティックを作り出しバツクルに取り付けベルトとして巻いた。

蒼牙は左腕を左腰に、右腕をV字に曲げる。

蒼牙「変身!!」

「change!! YAI BA!!」

蒼牙は右腕を横に伸ばすと同時にヤイバスティックを横に倒しヤイバに変身した。

榊原「おお。」

怪人「無駄だ、諦める。」

ヤイバ「諦めるか!!・・・俺は仮面ライダーヤイバだ!!覚悟しろ!!今日がお前の命日だ!!」

ヤイバは怪人に攻撃を仕掛けるが怪人は目にも止まらぬ速さで移動しヤイバに攻撃を連打する。

ヤイバ「ちよっ!?!速っ!?!うわあ!?!」

ヤイバは攻撃にぶっ飛ばされた。

ヤイバ「くそ……」

榊原「アイリさん、一体どうしたら?」

アイリ「私もヤイバの力をすべて知ってわけではないのでそこまでは……」

ヤイバは立ち上がる。

ヤイバ「速すぎるな……あっ。」

ヤイバはベルトから青い宝石のついたダッシュスティックを取り出す。

ヤイバ「これ……バツクルのやつに似てるな。」

ヤイバはヤイバスティックを外しダッシュスティックを試しに取り付ける、すると体が青く光り出す。

「change!!dash!!」

ヤイバの体は黒くなり複眼が青い姿になった。

アイリ「えっ!?!あれは!?!」

ヤイバ「おお、成功だ。」

ヤイバは怪人を追いかける、ヤイバは目にも止まらぬ速さで動いた。

ヤイバ「うわあ！？速い速い！！」

ヤイバは怪人を追い越し前に回り込む。

怪人「何！？」

そしてヤイバは目にも止まらぬ速さで蹴りを連打し怪人をぶっ飛ばした。

怪人「ぎゃあ！？」

「return！！YAIIBA！！」

すると勝手にヤイバは元の姿に戻った。

ヤイバ「時間制限・・・1分弱か。」

怪人はよろよろと立ち上がる。

ヤイバ「とどめだ！！」

ヤイバはスティックを一度立ち上げ再び横に倒す。

「YAIIBA charge！！」

ヤイバの右足に雷のパワーがたまる。

ヤイバは飛び上がり空中回転をしその勢いでキックを繰り返す。

ヤイバ「ライダーキック!!」

そのキックは怪人に直撃し膨大な雷と共に怪人を撃破した。

榊原「倒した・・・」

アイリ「ヤイバにあんな力が・・・」

ヤイバはベルトを外し変身を解いた。

・・・

ファミレス

榊原「良く食うなあ。」

アイリ「凄いですね。」

蒼牙「いやあ、戦いの後はお腹がすいちゃって!!榊原さんおごってくれみたいだし!!」

榊原「だからって、エビフライにステーキ、スパゲティにライス特盛りって(汗)。」

アイリ「この人で・・・大丈夫かな(汗)?」

蒼牙「いやあもう最高!!おかわり!!」

仮面ライダーヤイバ

EP2 決意（後書き）

次回、仮面ライダーヤイバ！！

蒼牙「ついに冬か、地獄だなあ。」

????「寒いのは嫌いだ。」

怪人「全て夏にする！！」

アイリ「暑いよ〜蒼牙〜。」

EP3 真冬にビーチ！？

EP3 真冬にビーチ!? (前書き)

仮面ライダーヤイバ!!

蒼牙「君を大切に思ってる人が悲しむから。」

アイリ「あなたが戦うなら私も信じるわ。」

榊原「お前は何故あの時人質を救った!?!」

蒼牙「俺・・・戦う!!変身!!」

EP3 真冬にビーチ！？

季節は冬・・・

アイリは蒼牙の家に居候する事になった。

それはともかくこの季節は蒼牙にとって地獄の始まりだった。

アイリ「ふわぁ、おはよう蒼・・・うわ！？なんかビリビリしてる
！？」

蒼牙「静電気男にとって冬は地獄なんだよぉ。」

静電気のみたまりやすい冬は蒼牙の体質を強力にするのだ。

蒼牙「はぁ、寒いしビリビリだし・・・冬なんて無くなれば良いの
に。」

バチッ！！

アイリ「きゃあ！？ちよつとあまり近づかないでよ！！」

蒼牙「だぁぁもぉぉ！！冬なんてやだぁ！！」

.....

EP3 真冬にビーチ！？

モグル「ヤイバか、俺達の計画の邪魔になりそうだな。」

カーズ「邪魔者は消すだけよ、ヤイバは体に電気をためている、この季節は警戒ね。」

マドラ「ははは、なら季節を変えれば良い、カーズの怪人が良いだろう。」

カーズ「かしこまりました。」

.....

蒼牙はなるべく人に近づかないようにしていた、もちろんアイリにも。

アイリ「ちょっと.....そこまで距離おかなくても(汗)。」

蒼牙「だって、近づいたらビリビリじゃん。」

アイリ(さすがに罪悪感が.....あら?)

季節は冬のはずだがなんだか暑く感じたのだ。

アイリ「なんか.....暑くない?」

蒼牙「ん?.....確かに、体のビリビリが少なくなったような.....」

そしてついには太陽がジリジリと真夏のように感じてきた。

市民「なっ!?!暑っ!?!」

子供「暑いよママ〜!」

アイリ「暑いよ!?!何で!?!冬だよ!?!12月だよ!?!」

蒼牙「わかってるよ!?!ああ、何だ!?!ちょっとアイリ!?!これってプロトの策略!?!」

バチ!!

しかし静電気は健在。

アイリ「暑い!?!痛い!?!わかんないけど・・・ああ!?!水浴びたい!?!」

アイリは何故か持ってた水着を持ち外に出た。

蒼牙「ええ!?!?ちよつとどこから持ってきたのアイリ!?!ちよつと!?!」

蒼牙も何故か海パンを持ちアイリを追いかける。

.....

アイリ「海いいいいいい!?!」

アイリは瞬間で更衣室で着替えて海に飛び込んだ、そして回りを見ると冬だが海は人でいっぱいだった。

蒼牙「ちよつとアイリ!?!冬なのにその格好は!?!(ちよつとかわいい)。」

アイリ「あなたも海パンじゃない！！浮き輪まで持って！！」

蒼牙もとりあえず海に入りアイリと話し合う。

蒼牙「プロトの仕業としか考えられない。」

アイリ「うん、それに・・・」

蒼牙「それに？」

アイリや他の人達は一斉に海から飛び出た。

アイリ「感電するのよ！！痛たたた・・・」

蒼牙「ご・・・ごめん。」

・・・

アイリ「話が途切れたけど、この異変はカーズの怪人ね。」

蒼牙「カーズ？」

アイリは説明しだした。

アイリ「そう、プロトには幹部が2人に大幹部が1人存在して、2人の幹部がモグルとカーズ、大幹部がマダラ・・・モグルは地中で行動が得意で怪力の持ち主、カーズは幹部の紅一点で主に異常気象を発生させる能力を持っているの、マダラはまだわかんないけど・・・」

蒼牙「じゃあこれはカースの？」

アイリ「いや、カースはもっと大がかりな異常を起こすわ、季節をおかしくするなんて事はカースにとっては小さな事だから・・・でもどうして季節を？」

????「ヤイバを弱体化させるためさ!!」

蒼牙「何だ!？」

後ろを振り向くとカースが生み出した怪人がいた。

市民「ばっ、化け物だあ!？」

市民は逃げ去る。

蒼牙「やい怪人!!頼みがある!!」

怪人「何だ？」

アイリ「服を着させて。」

.....

蒼牙「よし、改めて変身!!」

蒼牙は仮面ライダーヤイバに変身し、スパークブレードで怪人を斬りつける。

怪人「ぐお！？ならこれならどうだ！！」

怪人は海に飛び込んだ。

ヤイバ「あつ！？待て！！」

ヤイバは泳ぎながら怪人を追うが水の中では動きずらいようだ。

怪人「ほお！！」

怪人は飛び上がり口から水の球を放つ。

ヤイバ「うわあ！？くそ！！卑怯だぞ！！」

怪人「ははは！！ほれ！！ほれ！！」

アイリ「卑怯者！！正々堂々戦いなさい！！」

怪人「黙れ！！裏切り者が！！」

ヤイバ「くそ！！」

ヤイバはすっかり相手のペースにのまれてしまった。

怪人「冬の寒さを無くして貴様の力を弱めて正解だぜ！！」

ヤイバ「えっ！？」

アイリ「そうか・・・今のヤイバの力は蒼牙の静電気が力になって、冬の季節が無くなれば静電気も弱まるから！！」

怪人「その通り！！死ねヤイバ！！」

ヤイバ「なっ！うわぁ！？」

アイリ「蒼牙！！」

怪人「ひひひ！！このくらいにしといてやる、次に会う時はヤイバの力を俺に差し出すんだな。」

怪人は消え、ヤイバは海からよろめきながら上がってきた。

ヤイバ「くっ・・・」

ヤイバは変身が解けて倒れ込んだ。

アイリ「蒼牙！！蒼牙！！」

K A M E N R I D E R Y A I B A
n e x t e p i s o d e
…

EP3 真冬にビーチ!? (後書き)

次回、仮面ライダーヤイバ!!

市民「私の子供が!!」

怪人「ははは!!良い気分だ!!」

アイリ「あなたが信じれば、ヤイバの力は答えてくれるわ。」

ヤイバ「これが新しい力。」

EP4 波に乗れ!! (前書き)

仮面ライダーヤイバ!! 前回のあらすじ!!

季節が狂い夏になった!!

アイリ「暑い!! 暑いよ!! 12月だよ!?!」

プロトの幹部カーズの怪人が現れた!

怪人「ヤイバを弱体化させて正解だな!?!」

そしてヤイバは敗北してしまった!!

アイリ「蒼牙!! 蒼牙!!」

EP 4 波に乗れ!!

「・・・が・・・そう・・・が・・・蒼牙!!」

蒼牙「ハッ!？」

蒼牙は目を覚ました、そこは病室だった。アイリと榊原が心配そうに見ていた。

榊原「聞いたぜ、負けたんだってな。」

蒼牙「はい・・・水中戦は得意じゃなくて・・・」

アイリ「あいつは骨が折れるわね。」

蒼牙は問いだした。

蒼牙「そついえば俺何でここに?」

アイリ「榊原さんが運んでくれたの。」

榊原「静電気がくるんじゃないかとハラハラしたよ・・・にしても暑いな。」

蒼牙「やっぱりあの怪人を倒すしか方法は・・・」

すると外から声が聞こえてきた。

「先生!! 私の子供は!？」

「最善を尽くしましたが・・・この暑さではお子さんの体力がもたず・・・すいません。」

「そんな・・・そんなぁ!!」

榊原「・・・」

アイリ「・・・誰か死んじゃったんだ。」

蒼牙は拳を握り締める。

蒼牙「もうあんな思いは誰にもさせたくないのに!!・・・くそお!!」

蒼牙は拳で布団を殴りつける。

榊原「武藤・・・一体何があったんだ？」

アイリ「どうしてそこまで・・・」

蒼牙「・・・話すよ、俺の過去・・・」

・・・

今から五年前かな・・・俺には幼なじみで紗耶香って奴がいたんだ、そいつと高校の最後の夏休みにキャンプに行ったんだ。

蒼牙「紗耶香、これ。」

蒼牙「紗耶香を助ける事が出来なかった・・・」

アイリは涙ぐんでいた、すると榊原が

榊原「だからお前は誰も悲しませたくない・・・」

蒼牙「はい、だから俺はプロトを絶対にゆるせない。」

・・・

EP4 波に乗れ!!

アイリ「蒼牙、今回の怪人・・・どうするの?」

蒼牙「わからない・・・この暑さじゃ体力も長く続かないだろうし・・・」

榊原「水中はきついな。」

そうしているうちに次々と熱中症の患者が運ばれてきた。

アイリ「私達も急がないと。」

蒼牙「・・・」

蒼牙はどこかへ向かった。

アイリ「蒼牙?」

アイリは蒼牙のあとを追う。

.....

蒼牙「はあ。」

蒼牙は屋上でため息をつく。

アイリ「蒼牙どうしたの？」

蒼牙「アイリ、いや・・・今のままじゃ勝てないって思ったさ。」

アイリは蒼牙のそばによる。

アイリ「大丈夫よ、信じて。」

蒼牙「信じる？誰を？」

アイリ「自分をよ、あなたは実際私の知らないヤイバの力を使った。」

蒼牙「あの黒くて青いヤイバか。」

蒼牙は前回の戦いを思いだした。

アイリ「ヤイバの力はどうかやら人の心に反応するみたい、だから自分を信じればヤイバはきつと答えてくれる。」

蒼牙「アイリ・・・」

その時、榊原が2人の所にやってきた。

榊原「2人共、ちょっと来てくれ。」

蒼牙、アイリ「榊原さん？」

2人は榊原について行くとそこにはサーフィンが置いてあった。

蒼牙「サーフィン？」

榊原「役に立つか分からないが・・・波に乗れば良いかなってな。」

アイリ「無いよりましかもね、蒼牙これ。」

アイリは蒼牙にバイクを出す時に使う携帯を渡した。

蒼牙「ありがとう、行ってくる。」

榊原「怪人の場所が分かるのか？」

蒼牙「あいつは水から出ようとしないうちに俺が目当てみたいですから。」

蒼牙はバイクを出しサーフィンを縛り付けて怪人の場所に向かった。

榊原「俺達も行こう。」

アイリ「あつ、はい。」

アイリは榊原のパトカーに乗り蒼牙を追う。

.....

怪人「ひひひ！！性懲りもなくまた来たか！！」

蒼牙はバイクから降りベルトを巻く。

蒼牙「変身！！」

蒼牙はヤイバに変身し怪人に向き合う。

怪人「無駄だ！！水中の俺は無敵だ！！」

怪人は水中に入った、ちょうど榊原とアイリも場所に着いた。

ヤイバ「行くぞ！」

ヤイバはサーフィンで波に乗る。

そしてスパークブレードを構えるがバランスが上手くとれない。

怪人「馬鹿めが！！ほお！！」

怪人は水の球を放つ。

ヤイバ「うわぁ！？」

ヤイバは落とされた。

榊原「やはり無理か！？」

アイリ「蒼牙……」

ヤイバはサーフィンにもたれる。

怪人「死にぞこないが!!」

ヤイバ「絶対諦めない……絶対お前を倒す!! 覚悟しろ、今日がお前の命日だ!!」

すると携帯が光り出した、開くと画面にダイアルが表示されていた。

ヤイバ「なっ、何だ？」

ヤイバはダイアルを押す、するとサーフィンが携帯の光に反応しヤイバをモチーフにした姿に変わった。

榊原「サーフィンが!？」

アイリ「変わった!？」

ヤイバ「これが……新しい力。」

ヤイバはサーフィンに乗り怪人を追う。

怪人「また落としてやる!!」

しかし怪人の水の球をサーフィンを操作し軽々と交わしスパークブレードを構える。

ヤイバ「行くぞ!!」

怪人「ぐっ!?!」

怪人は方向転換し逃げるがヤイバはすぐに回り込んだ。

怪人「俺より速いだと!?!」

ヤイバ「でりやあああああああああああああ!?!?!?!?!」

ヤイバは剣で切り上げて怪人を引きずりだした。

怪人「なあ!?!」

高く切り上げられた怪人に向かってヤイバはヤイバスティックを倒し雷を足にためて飛び上がった。

ヤイバ「ライダースピニング!」

ヤイバは横回転をしながら怪人を蹴り込んだ。

怪人「ぎゃあああああ!?!」

怪人は消滅した、ヤイバはサーフィンに着地し陸に上がる。

アイリ「凄いよ蒼牙!」

蒼牙「突然だったからびっくりだったよ。」

榊原「しかしサーフィンが役に立って良かった……ん?寒くないか?」

アイリ「え……さ……」

蒼牙「寒っ!?!」

そう怪人を倒したから季節が元に戻ったのだ。

蒼牙「榊原さん!! 車乗せて!! アイリも早く!!」

バチバチ!!

榊原、アイリ「ぎゃあああああ!?!」

蒼牙「あつ……」

仮面ライダーヤイバ

EP5 地底の幹部（前書き）

これまでの仮面ライダーヤイバ！！

蒼牙「話すよ俺の過去・・・」

榊原「だからお前、人を悲しませたくないと・・・」

怪人「諦める。」

ヤイバ「絶対諦めない・・・絶対お前を倒す・・・覚悟しろ！！今日がお前の命日だ！！」

EP5 地底の幹部

プロト本拠地……

カーズ「まさかあの怪人がやられるなんて……」

マダラ「まあ奴もあんな手術されたんだ、力があるのは確かだ。」

モグル「手術？……ああ、三年前のか。」

カーズ「ヤイバ自身は忘れられてるみたいだけどね。」

マダラ「思いだせば絶望に襲われるだろうな、モグル、今回はお前の怪人で行けるか？」

モグル「かしこまりました、スーアを送ります。」

……

EP5 地底の幹部

蒼牙の家……

蒼牙「ブルブルブルブル!!」

アイリ「何であなたの家ストーブとか暖房器具系が無いのよ!？」

蒼牙「だってお金が無いんだからしょうがないじゃん!？」

蒼牙はフリーターなので生活費だけで精一杯なのだ。

アイリ「何でちゃんとした職につかないの!？」

蒼牙「何か嫌なの!！」

そこに榊原が蒼牙の家に訪れた。

榊原「おいおい何だよこんな寒いのに暖房つけないのか？」

榊原はおでんを差し入れに持ってきた。

蒼牙、アイリ「やったああああああ!！」

.....

蒼牙「はあ、温まるなあ。」

アイリ「ねえ。」

榊原「この際だ武藤、警察にならないか？」

アイリ「良いじゃない、収入も高いし。」

蒼牙「俺はしががない凡人でいたいのに。」

榊原、アイリ「(汗)。」

外は雪が降っていた、すると地震のような揺れが起こった。

榊原「おお、地震か・・・なんだか可笑しくないか？」

アイリ「確かに地震には変ね。」

蒼牙「外に出てみよう。」

蒼牙達が外に出ると地面の所々に穴があいていた。

榊原「プロトの仕業だな。」

アイリ「ええ、恐らく幹部モグルの怪人。」

蒼牙はヤイバスパーカーを構え変身の準備を整える。

蒼牙「どこだ？」

すると穴から怪人スーアが現れた。

アイリ「出たわ!？」

スーア「俺はモグル様の部下スーアだ!!覚悟!!」

蒼牙「覚悟するのはお前だ!!変身!!」

「change YAIIBA!!」

蒼牙はヤイバに変身し、スパークブレードを構える。

スーア「面白い!」

スーアはヤイバに飛びかかるがヤイバはスーアを斬りつける。

スーア「ぐは!?!」

榊原「アイリさん、ここから離れよう!?!」

アイリ「はい!?!」

スーア「おのれヤイバ!?!」

ヤイバ「一気にとどめだ!?!」

ヤイバはスパークブレードに取り付けているダッシュスティックを回転させ剣にエネルギーをためる。

ヤイバ「ライダー Slash!?!」

スーア「まずい!?!」

スーアはかぎづめで穴を掘りヤイバの技から逃れた。

ヤイバ「あつ、待て!?!」

榊原「逃げたか。」

アイリ「まあ、仕方ないわね。」

ヤイバはふと気配を感じた、振り向くと体に重たい衝撃が走った。

ヤイバ「うわあ!?!」

ヤイバは吹っ飛ばされた。

榊原「武藤!?!」

アイリ「なっ……モグル!?!」

それはプロトの幹部モグルだった。

モグル「久しぶりだなアイリ、そいつがヤイバか。」

ヤイバ「モグル?……幹部の?」

アイリ「逃げて、今のあなたでは勝てない!!」

しかしヤイバは剣を構える。

ヤイバ「ダメだ、今放っておいたら何するかわからない!!」

モグル「ヤイバ、お前には少し痛い目にあってもらおうか。」

ヤイバは剣を振り下ろすが片手で受け止められた。

ヤイバ「なっ!?!」

モグル「お笑いだな、こんな奴がヤイバとは。」

モグルはヤイバの顔面を殴りつけた、ヤイバの仮面の一部が砕けた。

ヤイバ「あああああ!?!」

アイリ「蒼牙!?!」

アイリはヤイバに寄り添うがヤイバはそれを振り払いダッシュステイックをバツクルにつけた。

「change dash!?!」

ヤイバはダッシュフォームで高速で動き蹴りを連打する、しかしモグルにはびくともしなかつた。

モグル「目障りだなあ。」

モグルはなんとダッシュフォームの速さに合わせて拳をヤイバに直撃させた。

ヤイバ「うわあ!?!」

アイリ「そんな、あの速さについていった?」

「return YAIIBA!?!」

そしてヤイバは元の姿に戻ってしまった。

榊原「化け物か奴は!?!」

モグル「わかつたか、怪人を倒しても俺達を倒せなきゃ意味が無いんだよ、またな。」

気づくとモグルは消えていた。
ヤイバは変身を解いた。

蒼牙「くっ……強い……」

榊原「武藤、あまり無茶するなよ。」

アイリ「ここだと体が冷えるわ、一旦戻りましょう。」

……

榊原「しかしモグルとかいうのは凄い馬鹿力だな。」

アイリ「あいつはプロト1の怪力で、今の蒼牙では……」

アイリは傷ついた蒼牙を看病する、すると蒼牙が言った。

蒼牙「でも諦めないよ。」

榊原「武藤……」

アイリ「勝機はあるの？」

蒼牙「いや……でも俺がやるしかない、それは確かだから、負けても挑んで……挑んで挑んで挑みまくるよ、勝つまでね。」

アイリ「……ふふっ、蒼牙らしい。」

榊原「その前にまずはあの怪人だな。」

蒼牙「俺行くよ。」

アイリ「だっ、だめよ!!!まだ傷が・・・」

蒼牙「大丈夫、まかせてよ。」

そう言っつて蒼牙はバイクに乗り怪人を捜索しに行った。

アイリ「蒼牙・・・」

K A M E N R I D E R Y A I B A
n e x t e p i s o d e
...

EP5 地底の幹部（後書き）

次回、仮面ライダーヤイバ！！

蒼牙「どうすれば良いんだ・・・」

スーア「諦めの悪い奴だ。」

モグル「勝ち目はない。」

ヤイバ「勝ち目はあるものじゃない、自分で作るものだ！！」

EP 6 速攻（前書き）

仮面ライダーヤイバ！！前回のあらすじ！！

地中怪人スーアが現れた。

蒼牙「変身！！」

プロト幹部モグルがヤイバを圧倒！！

ヤイバ「うわぁ！？」

モグル「痛い目合わせてやらないとな。」

今回ヤイバを待ち受けるものは！？

EP 6 速攻

蒼牙はバイクに乗り怪人スーアを探す。

蒼牙「怪人の穴が無いな。」

蒼牙はひたすらバイクを走らせる。

プロト本拠地・・・

カーズ「ヤイバを痛めつけたのね？」

モグル「ああ、良い気分だったぜえ。」

マダラ「調子にのるなよ、いつヤイバが新たな力を手に入れるかわからんぞ。」

モグル「大丈夫ですよ、スーアの地中移動があればね。」

・・・

EP 6 速攻

蒼牙の携帯が鳴る、アイリだ。

蒼牙「アイリ？」

アイリ「蒼牙、考えたんだけど・・・あいつは地中からの不意打ちが得意で戦闘力はそれ程ないと思うの。」

蒼牙「不意打ちか・・・わかった。」

蒼牙は電話をきくと突然スーアが飛び出し蒼牙を襲った。

蒼牙「うわぁ!?!」

スーア「ひひひ!! ヤイバ、今日こそ血祭りだ!!」

蒼牙はヤイバスパーカーを装着した。

蒼牙「変身!!」

「change YAIIBA!!」

蒼牙はヤイバに変身した、スーアは再び地中に潜った。

ヤイバ「よし。」

ヤイバは穴に飛び込み地中に入った。

.....

ヤイバ「やっぱり暗いなぁ。」

ヤイバは辺りを見渡すと、掘られた通路が無数に広がっていて何故か骸骨が転がっていた。

ヤイバ「なっ・・・何で・・・」

スーア「来たかヤイバ。」

ヤイバ「お前、これは一体!?!」

スーア「ああ、それ俺の飯だ。」

ヤイバ「・・・は?」

スーア「俺だって生きてるんだ、食料は必須だろう?」

ヤイバ「そのために・・・地上の人を襲って食ったって事か?」

スーア「ああ、まあ味は微妙だったかな。」

ヤイバの拳に力が入る。

ヤイバ「てめえだけは許さん!!」

スーア「ほざけ!!」

スーアは地中が得意、まずは地上に引きずりだそうと考えた。

ヤイバ（でも土の中の奴をどうすれば・・・）

そう考えているとスーアがヤイバに追い討ちをかける。

ヤイバ「ぐは!?!」

スーア「ははは!!!地中で俺に勝てると思ったか!?!」

ヤイバは一旦地上に出た。

ヤイバ「くそ、どうすれば……」

しかし地面からスーアが追い討ちをかける。

ヤイバ「くっ、卑怯な奴だ!!こっとなつたら……」

ヤイバは何か考えついた、ダッシュスティックをバツクルにつけた。

「change dash!!」

ダッシュフォームになつたヤイバはじっと待つ。

スーア「とどめだあ!!」

スーアが地面から飛び出した瞬間、ヤイバはダッシュフォームの速さでかわし打撃を与える。

スーア「なっ!?!」

ヤイバは目にも止まらぬ速さで打撃を与えていく。

ヤイバ「おりやりやりやりやりや!!」

スーア「ぎゃああ!?!」

ヤイバはスーアをぶっ飛ばす。

スーア「くっ……」

ヤイバ（恐らくあと10秒!!）

ヤイバはダッシュユスティックを倒し足に雷をためる。

「dash charge!!」

「ア「まずい!?!」

ヤイバ「逃がすか!!」

ヤイバは高速で動き連続蹴りを繰り返す。

ヤイバ「ライダーダッシュユラッシュ!!」

スーア「うああああああ!!」

スーアは爆発し、ヤイバは元の姿に戻った。

ヤイバ「・・・!?!」

ヤイバは何かの攻撃をかわした、モグルだった。

モグル「スーアを倒すとはな。」

ヤイバ「モグル・・・」

ヤイバは剣を構える。

モグル「まあ待て、戦いはしない。」

ス

ヤイバ「どういう事だ？」

モグル「そうか・・・本当に忘れてるのか。」

ヤイバはワケが分からなかった。

モグル「まあ、直にわかる事だ・・・じゃあな。」

ヤイバ「待て!!！」

・・・

榊原「無事だったか!？」

蒼牙「はい、なんとか倒しました。」

アイリ「良かった。」

蒼牙「うん（モグル・・・一体何の事を言ってたんだ?）。」

仮面ライダーヤイバ

EP7 過去（前書き）

これまでの仮面ライダーヤイバ！！

蒼牙「てめえだけは許さん！！」

モグル「戦いはしねえよ。」

榊原「無事だったか！？」

アイリ「良かった・・・」

EP7 過去

蒼牙の家……

アイリ「ねえ、蒼牙。」

蒼牙「ん？」

アイリ「嫌な事思い出させちゃうけど……紗耶香さんが亡くなった後どうやって生きてきたの？」

アイリは蒼牙に過去を聞いた。

蒼牙「……実は覚えてないんだ。」

アイリ「覚えてない？」

蒼牙「うん、紗耶香が死んでから毎日紗耶香の墓に手を合わせて色んなバイトしてたけど、それから2年くらいしてからぼっかり記憶が無いんだ。」

アイリ「記憶があるのは？」

蒼牙「ぼっかり記憶が無いのは一週間ぐらい、それからは今と同じ。」

アイリは不思議そうな顔をした。

蒼牙「……お腹空いたな、ご飯食べに行こう。」

アイリ「えっ、私も!？」

蒼牙「当然、家族みたいなもんだろ？」

アイリ「……」

……

EP7 過去

蒼牙とアイリは喫茶店に寄り食事を済ませある広場まで来た。

アイリ「ここは？」

蒼牙「……ここに来て3年前の一週間ばかり記憶が無くなったんだ。」

アイリ「ここに……何かあるの?」

蒼牙「わからない、少なくともあの一週間に何かがあった、その日から体に電気がたまりはじめて……」

アイリは少し驚いた、電気がたまりやすい体質は生まれつきではなくその空白の一週間で出来た体質だと蒼牙が言ったからだ。

蒼牙「ずっと気になってたびたびよるんだけど……思いだせない。」

アイリ「大丈夫、いつか思い出すよ!」

蒼牙「アイリ……ありがとー。」

その時

???「裏切り者が良くそんな事を言えるわね。」

アイリ「!?!」

蒼牙「なっ、誰だ!?!」

するとどこからかプロト幹部のモグルとカーズが現れた。

アイリ「モグルにカーズ……」

カーズ「初めて……じゃないわね。」

蒼牙「は?何を……」

モグル「な?忘れてるだろ?」

カーズ「確かにね。」

蒼牙「何をごちゃごちゃと……アイリ隠れて。」

アイリ「う、うん。」

蒼牙はヤイバスパーカーをつける。

蒼牙「変身!!」

「change YAIIBA!!」

蒼牙はヤイバに変身した。

カーズ「ヤイバ・・・私達に感謝してね。」

ヤイバ「は？」

モグル「カーズ、こいつヤイバに変身できるの俺達のおかげで事忘れてるんだって。」

ヤイバ「お前、まさか3年前の事知ってるのか？」

ヤイバは3年前の空白の一週間について問いだした。

カーズ「ええ、なら教えてあげるわ。」

.....

3年前、私達はプロトを作る計画を進めていた、そして首領を復活させるための生け贄を探していた。

モグル「首領は何で封印されたんだ？」

カーズ「首領は500年前に存在した戦士と戦い敗れて封印されたの。」

マダラ「それがヤイバの力を持つ者だ、その子孫は今力を持って

いない、首領封印で全ての力を使い果たしたからな。」

そう話していたら偶然あなたが通りかかったのよ。

マダラ「次は奴だ。」

モグル「行ってくる。」

モグルは人間に擬態してあなたを襲い完成しつつあったプロト本拠地に連れて行った。

蒼牙「何だよお前ら！！鎖を外せ！！！」

マダラ「すぐに終わる、やれ。」

私達の部下はあなたに耐えきれない程の電流を送ったわ。

蒼牙「ぎゃあああああああああああああああ！！？」

モグル「今までの奴はすぐ死んだがこいつタフだな。」

カーズ「もしかしてこいつがヤイバの？」

マダラ「なら好都合、次は人間を超えさせる。」

私達の部下はあなたの体を手術したわ、そうあなたは人間じゃなくなったの、そこからあなたは気を失ったわね、それが空白の一週間じゃないかしら？

.....

カークズ（あなたは改造人間。）

モグル（改造人間。）

改造人間

蒼牙「う・・・ああ・・・」

改造人間改造人間改造人間改造人間改造人間改造人間改造人間
改造人間改造人間改造人間改造人間改造人間改造人間改造人間
改造人間改造人間改造人間改造人間改造人間改造人間改造人間

蒼牙「うああああああああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ！！？」

K A M E N R I D E R Y A I B A

n e x t e p i s o d e . . .

EP7 過去（後書き）

次回、仮面ライダーヤイバ！！

蒼牙「ほつといてくれよ！！」

榊原「このままじゃ街が！？」

アイリ「死にたいの！？」

カース「あはは！！力無き者は滅びなさい。」

怪人「貴様など敵ではない。」

蒼牙「俺は人間として生きる・・・もう誰も悲しませないために！！」

EP8 不死鳥

EP8 不死鳥（前書き）

仮面ライダーヤイバ！！前回のあらすじ！！

蒼牙には失われた過去があった！！

蒼牙「この広場で記憶が無くなったんだ。」

蒼牙は改造人間だった！！

カース「あなたは人間ではない。」

モグル「改造人間だ。」

ヤイバ「そんなの嘘だああああああ！！！」

今回、ヤイバを待ち受けるものとは！？

EP 8 不死鳥

真実を知った翌日、蒼牙は家に閉じこもっていた。

アイリ「蒼牙・・・大丈夫？」

蒼牙「・・・」

蒼牙は自分の手を見つめる、見た目は人間だが人間ではない、それがシヨックだったのだろう。

アイリは蒼牙を慰めるために慣れない料理をした。

アイリ「蒼牙！私料理してみたんだ、慣れてないけど良かったら・・・」

蒼牙「いらない。」

蒼牙は低い声で言った。

アイリ「ダメよ、昨日の夜から何も食べてないじゃない、少し食べて・・・」

すると蒼牙はアイリの料理を振り飛ばした。

アイリ「蒼牙!？」

蒼牙「ほっといてくれよ!!お前に何がわかるんだよ!？」

アイリは見たことのない蒼牙を見て驚いた。

蒼牙「!・・・ごめん、1人にさせて。」

アイリ「蒼・・・牙」

・・・・・・・・

EP 8 不死鳥

プロト本拠地

マダラ「そうか、真実を伝えたか。」

カーズ「ええ、それはもう絶望していましたわ。」

モグル「うああああ!! って馬鹿みたいに叫んでいましたよ。」

マダラ「これでチャンスが出来たな。」

・・・・・・・・

その頃、アイリは榊原と2人で寒い中白い湯気が立つ缶コーヒーを飲んでいた。

榊原「・・・そうか、あいつにそんな事が・・・」

アイリ「はい、まだ自分が改造人間である事を受け入れられないみたいです。」

榊原「まあ、そりゃあいきなりお前は人間じゃないなんて言われた

らふさぎ込むよな。」

アイリ「私、どうしたら良いか。」

榊原「あいつ俺に似てるんだよなあ。」

アイリ「似てる？」

榊原「俺がまだ新任の若造だったころ、誘拐事件があつて・・・俺がむやみに犯人に近づいて誘拐された子が殺されちまつたんだ。」

アイリ「・・・」

アイリは榊原の話を真面目な顔で聞く。

榊原「俺は殺された子の親に死ぬほど恨まれて・・・先輩にはお前が殺したんだあなんて言われて・・・しばらく非難の声を浴びたよ。」

アイリ「じゃあどうやって今のように？」

榊原「・・・1年前に死んだ同僚がいてな、そいつが支えてくれたんだ・・・お前はお前、人に左右されるなつて。」

アイリ「お前はお前、人に左右されるな・・・か。」

榊原の過去を知ったアイリはもう一度蒼牙と話そうと試みたがそこにカーズが現れた。

榊原「アイリさん!!」

アイリ「カーズ・・・何のよう？」

カーズ「ヤイバはもう使えない、あなたを殺るチャンスかな？つて。」

榊原は拳銃を撃ち出す、しかしカーズの体は銃弾を潰した。

カーズ「ふん、人間が・・・」

榊原「蒼牙の所に行くんだアイリさん。」

カーズ「人間に興味はないわ、どいて。」

榊原「どくと思うか？」

榊原は缶コーヒーを投げつけた。

カーズ「きゃあ！？あつ、熱っ!？」

榊原「今の内!!!」

榊原はアイリを連れてカーズから逃げた。

カーズ「・・・クズが、許さん!!」

カーズの影から黒くカーズと同じ姿をした分身が現れた。

榊原「危ない危ない、早くあいつの所に。」

アイリ「あっ、はい、ありがとうございます。」

アイリは蒼牙の家に向かう。

.....

蒼牙は変わらず家にこもっていた。

アイリ「蒼牙・・・プロトが現れたわ。」

蒼牙「.....」

蒼牙はまだふさぎ込んでいる、そしてアイリの同情の心はついに怒りへ変わった。

アイリ「蒼牙のバカ!!」

アイリは蒼牙をひっぱたき首を締め出した。

蒼牙「痛っ!?!ぐえっ!?!」

アイリは手に力を入れていく。

蒼牙「ちよっ・・・死ぬ・・・」

アイリは手を緩めた。

アイリ「苦しかった?」

蒼牙「当たり前だろ!?!苦しいし痛いし!?!」

するとアイリは

アイリ「ならそれで良いじゃない。」

蒼牙「え?・・・」

アイリ「苦しい、痛い、辛い、そう感じるのはあなたはまだ人間である証・・・改造人間だろうと関係ない、あなたは世界にたった1人しかいない、武藤蒼牙なのよ。」

蒼牙「・・・たった1人の・・・人間。」

アイリは蒼牙の手を握る、手に電気が流れる。

アイリ「痛っ!?!」

蒼牙「ちよつと!?!」

しかしアイリは蒼牙の手を放さない。

アイリ「大丈夫・・・蒼牙、あなたはあなた・・・良い?」

蒼牙「・・・あ」

・・・

蒼牙はふと五年前を思い出した。

紗耶香「そっちゃんまた喧嘩?」

蒼牙「ちくしょう、また負けた・・・次は必ず、って痛い!？」

紗耶香「もうじっとしてよ!?!」

蒼牙「できるか!?!あいつに勝たないと俺はあいつより弱いままじゃねえか!?!」

紗耶香「別に良いじゃん。」

蒼牙「はあ!?!」

紗耶香「あいつはあいつ、そうちゃんはそうちゃん、超えたって意味無いよ、上には上がいるんだし・・・そうちゃんはそうちゃんのままが良いの。」

.....

アイリ「蒼牙?」

蒼牙「あれ!?!・・・いや、なんでも・・・」

蒼牙はアイリと紗耶香の姿を重ねていた。

蒼牙「ありがとうアイリ・・・俺行ってくる!?!」

アイリ「うん、って私も行くわよ!?!」

蒼牙は外に出ると榊原がカーズと黒いカーズに襲われていた。

榊原「はあ・・・はあ・・・」

カーズ「うふふ、どうそっくりでしょ？私の分身、さっきの恨み晴らさせてもらうわよ！！」

カーズが榊原にとどめをさそうとした瞬間

蒼牙「やめろ！！」

カーズ「あら？随分と早い立ち直りね、改造人間くん。」

黒いカーズ「殺されに来たの？」

アイリ「あんた達！！」

蒼牙「これ以上榊原さんに手をだすな！！」

蒼牙はヤイバスパーカーを装着する。

蒼牙「変身！！」

「change YAIIBA！！」

蒼牙は稲妻に包まれてヤイバに変身した。

カーズ「私に勝てると思ってるの？」

黒いカーズ「あわれね。」

ヤイバはカーズに向かって剣を振り回すがひらりひらりとかわされ

てしまう。

ヤイバ「くっ！速い！！」

ならばとヤイバはダッシュステイクをバツクルに取り付ける。

「change dash！！」

ダッシュフォームの高速斬りで攻めるがそれすらかわされる。

カーズ「あなたの事は研究済みよ！！」

カーズと黒いカーズはヤイバに重たい一撃を与えた。

ヤイバ「ぐあ！？」

ヤイバは元の姿に戻る。

アイリ「蒼牙！！」

カーズ「馬鹿ね、だから言ったのに。」

黒いカーズ「大人しく首領復活の生け贄になりなさい、改造人間が。」

しかし

ヤイバ「やだね・・・俺は決めたんだ、みんなを守る・・・ヤイバとして、1人の人間・・・武藤蒼牙として！！」

アイリ「!!!」

その時、太陽から一筋の光線が放たれヤイバに直撃した。

ヤイバ「うわ!?!」

カーズ「なっ、何!?!」

ヤイバ「熱っ!?!?・・・くない?」

ふとベルトをみるとヤイバステイックが赤く燃えたぎる翼のような形のようなもの変わっていた。

アイリ「あれは・・・」

ヤイバ「何だこれ・・・バツクルを開けば良いのか?」

ヤイバはバツクルを両方向に引つ張り開いた、すると

「change SUN!!!」

ヤイバの体が激しい炎に包まれた。

カーズ「何!?!」

アイリ「ヤイバの姿が・・・不死鳥に・・・」

ヤイバ「うおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おお!!!!!!!!!」

炎が解き放たれた時、ヤイバは顔に赤い翼のような仮面に黄色い複眼、黒の体に赤い装甲、総体的に不死鳥のような姿に変わった。

黒いカーズ「何だと!？」

榊原「赤い・・・ヤイバか。」

カーズ「ヤイバは雷の戦士のはず!？何故炎を司っている!？」

アイリ「ヤイバの力が蒼牙の思い答えた・・・あ、榊原さん!！こちこつち!！」

榊原「おいおい、こちとら怪我人だぜ？」

榊原はアイリのもとに行く。

ヤイバ「凄い・・・なんだこの熱い気持ち・・・これなら!！」

すると突然黒いカーズがヤイバに向かってくる。

黒いカーズ「赤いから何だ!！」

黒いカーズはヤイバを襲うがヤイバは黒いカーズの攻撃を片手で止めた。

カーズ「何!？」

ヤイバ「力が・・・湧き上がる!？」

ヤイバは拳から炎を放ち黒いカーズを殴りつけた。

黒いカーズ「ぎゃあ!?!」

アイリ「凄い!?!」

榊原「とんでもない力だな!?!」

ヤイバは手を掲げて剣を出した。

そして不死鳥のような予測できない動きでカーズ、黒いカーズに攻撃を与える。

カーズ「ああ!?!くっ・・・分身、後は頼んだわ!?!」

黒いカーズ「はい!?!」

黒いカーズは空高く飛び上がった。

黒いカーズ「いくらパワーアップしても空中は手も足も・・・」

しかしヤイバの背中から炎の翼が生え空高く飛び上がった。

黒いカーズ「何!?!」

ヤイバ「だあ!?!」

ヤイバは黒いカーズを斬りつけて落下させる。

そしてバツクルを一度閉じ再び開く。

「SUN charge!?!」

ヤイバの右足は不死鳥のような炎に包まれヤイバは右足を突き出し急降下する。

ヤイバ「ライダーサンブレイク!!」

黒いカーズ「ぎゃああああ!?!」

黒いカーズは膨大な炎と共に消滅した。

.....

蒼牙「ありがとう、アイリ。」

アイリ「ううん、私はあなたに助言しただけ、心を開いたのはあなただから。」

蒼牙「でもありがとう。」

アイリ「あ・・・その・・・うん。」

榊原「2人共、顔が赤いぞ。」

蒼牙、アイリ「だっ、誰が!!! / / / / /」

仮面ライダーヤイバ

EP8 不死鳥（後書き）

次回、仮面ライダーヤイバ！！

蒼牙「行方不明事件？」

榊原「近所の中学校で起こっている。」

マダラ「今回は俺の出番だな。」

アイリ「わかったわ！！犯人が！！」

EP9 潜入捜査！！蒼牙が先生、アイリは学生！？

EP9 潜入捜査！！蒼牙が先生、アイリは学生！？（前書き）

仮面ライダーヤイバ！！

蒼牙「ここで記憶が無くなったんだ。」

カーズ「あなたは改造人間なのよ。」

蒼牙「そんなのうそだああああ！！！」

榊原「あいつ俺に似てるんだよ。」

アイリ「あなたは世界でたった一人の人間よ。」

蒼牙「俺は戦う、誰も悲しませないために！！！」

EP9 潜入捜査！！蒼牙が先生、アイリは学生！？

プロト本拠地

カーズ「くそっ！！ヤイバが新しい力を手に入れてしまった。」

マダラ「そう慌てるな。」

モグル「しかし、また厄介な力を・・・」

マダラ「手はうってある。」

.....

ある夜、ある学生が歩いていた。

学生「やべっ！？遅くなった、急がな・・・うわあああああああ
あ！！！」

.....

EP9 潜入捜査！！蒼牙は先生、アイリは学生！？

蒼牙「はあ、暖かいなあ。」

アイリ「榊原さんがストーブを提供してくれたおかげね。」

.....

榊原「ほら武藤！！びっくりしたろ？」

蒼牙「びっくりも何も何で榊原さんがこんな高そうなストーブを！？」

榊原「真冬でストーブなしじゃ自殺行為だろ、ここは大船に乗ったつもりでいろ。」

アイリ「太っ腹ねえ。」

.....

榊原はストーブなしの蒼牙の家を気にかけてストーブを提供してくれたのだ。

榊原「おい、おっ、使ってるなあ。」

蒼牙「榊原さん。」

アイリ「どうしたんですか？」

榊原「実はな.....」

.....

蒼牙「誘拐事件？」

榊原「最近学生が行方不明になる事件が多発しててな。」

アイリ「それで私達に協力を？」

榊原「本当はこんな事お前達にさせたくないんだが・・・上からの命令で知り合いに協力しろってな、お前達しか思い浮かばなかった。」

アイリ「お偉いさんから・・・妙ね。」

榊原「ああ。」

しかし蒼牙は

蒼牙「まかせてください！！この武藤蒼牙22歳！！喜んで協力します！！！」

アイリ「蒼牙！？それ本気！？」

榊原「大丈夫か本当に？」

蒼牙「大丈夫ですよ！！報酬はファミレスのステーキセットご飯大盛りで！！！」

アイリ・榊原「あゝ、やっぱり（汗）」

そんな条件付きで蒼牙は教師という役目で行方不明事件が多発している学校に配属した。

榊原「いいか？真実を知ってるのは俺、アイリさん、学校の校長、そしてお前だけだからな。」

蒼牙「わかってますよ、あれ？アイリは？」

榊原「ああ、実はお前の監視役としてな？」

するとアイリがもじもじしながら2人の所に来た。

アイリ「ちょっと・・・榊原さん、なんで私がこんな格好を・・・
／／／／／」

榊原「なかなか似合ってるじゃないか。」

蒼牙「あっ・・・えっ!？」

そうアイリはこれから潜入する学校のセーラー服を着ていた、偶然にもその学校はアイリの母校だった。

蒼牙「な・・・なんでアイリが?(か、かわいい／／／)」

榊原「偶然にもアイリさんはこの学校の生徒だったみたいだな。」

アイリ「やっぱりダメですよ!!私の知ってる先生いたらどうするんですか!?!それに私もう20歳ですよ!?!セーラー服はちっちゃいしどう見たってみんなより歳とってるように見えるし・・・ちょっと蒼牙あんまりじろじろ見ないでよ!?!／／／／／」

蒼牙「は!?!?ごっ、ごめん。」

そんなこんなで学校に配属、転校した蒼牙とアイリは捜査開始。

蒼牙「ねえねえ、気になったんだけど・・・」

学生「ああ！？何だてめえ！？蒼牙「ごめんなさい！？」

アイリ「ねえ、最近生徒が行方不明になってるって本当？」

学生「ん〜、本当だけど詳しい事はわかんないなあ。」

アイリ「そっか、ねえ君は？」

学生「はい！？あつ・・・その・・・／／／」

アイリ「？、どうしたの？」

学生「なつ、何でもないです・・・そうだ！！」

・・・

放課後、学校の屋上

アイリ「ああ、知ってる先生みんな転勤してて良かった。」

蒼牙「手がかりは？こっちはからまれるわナンパされるわ大変だった。」

アイリ「こっちがっぽり掴んだわよ。」

・・・

2人は榊原の所に向かった。

榊原「仕返しの館？」

アイリ「はい、最近ネット上で流行ってるサイトで依頼を書けば誰にでも仕返ししてくれるとか。」

蒼牙「じゃあ、誰かあの学校の学生に恨みを？」

榊原「なるほど・・・善は急げだ、アイリさんは困な。」

アイリ「わかりました・・・ってちよつとおおおお!？」

蒼牙「何言ってるんですか榊原さん!？」

榊原「俺だって本当はこんな事はしたくないさ・・・でも命令なんだ。」

アイリ「いやいや!?!でも・・・」

榊原「報酬は六 亭のショートケーキ1ホールなアイリ」やります。」

蒼牙（早っ!?!）

そんなこんなで作戦を立てる。

榊原「狙われている学生の共通点は3つ、1つ目はこの学校の学生、2つ目は狙われているのは2年生、3つ目は・・・」

アイリ「榊原さん?」

蒼牙「どうしたんですか?」

榊原「……3つ目は、全員親がない。」

蒼牙・アイリ「？」

今まで行方不明になった学生は身寄りのない者ばかりだった。

アイリ「親がない……か。」

蒼牙「でも何でアイリを？」

榊原「少し調べたよ、アイリさんの親は……数年前に何者かに殺されている。」

蒼牙「え……？」

榊原「すまないアイリさん、辛い事を思い出させて……。」

アイリ「いえ……それより困って何をすれば？」

……

榊原「……てなわけだ。」

アイリ「わかりました、じゃあ今日の夜に……あっ」

アイリの持っていたカバンから何やら大量の手紙が流れ出た。

蒼牙「うお！？何だ！？」

アイリ「ああ！？見たらダメ……」

しかし時すでに遅し蒼牙は手紙を読んだ。

「かわいいですね。」

「今度お食事にも。」

「今度遊園地に……」

「ライブ来てください。」

蒼牙「……これって……」

榊原「ほほお、モテモテじゃないか。」

アイリ「はあ、からかわないでください、それに全部断ってますから。」

蒼牙「そうか（何だ良かった……って あれ！？何俺安心してんだ！？【汗】）。」

そんなこんなで夜……

アイリは夜道を歩く、ちなみに小型の通信機を身につけている。

榊原「こちら榊原、どうだ？」

アイリ「はい、今のところは異常なしです（小声）。」

蒼牙と榊原はアイリと距離をおき偵察している。

アイリ「・・・？」

アイリが何かに気がつく、跡をつけられているのだ。

アイリ「こちらアイリ、誰かにつけられています。」

蒼牙「よおし、さつさとつちめて・・・」

榊原「待て、まだ誘拐犯とは決まっていない・・・アイリさん、続けて様子を見てくれ。」

アイリ「はい。」

アイリは歩き続けてある道を曲がった、何者かがつけていくとそこは行き止まりだった。

????「何!？」

アイリ「残念ねえ。」

反対側からは榊原と蒼牙が挟み撃ちにする。

榊原「警察だ、そこを動くな。」

蒼牙「何だお前は!？」

何者かは覆面をつけていた。

「????」「あくあ、バレたか。」

榊原「覆面を外せ。」

「????」「はいはい。」

すると何者かは覆面を外すどころか姿がみるみる変わっていった。

榊原「何!?!」

蒼牙「あれは!?!」

アイリ「プロト大幹部マダラ!?!」

そう、アイリをつけていたのは人間に擬態したプロト大幹部マダラだった。

マダラ「今回は俺の出番だな。」

蒼牙はバックルを装着する。

蒼牙「変身!?!」

「change YAIIBA!?!」

マダラ「ヤイバか・・・面白い。」

ヤイバ「はあ!?!」

ヤイバは剣を振り下ろすが片手で止められた。

ヤイバ「くっ、お前が誘拐事件の犯人だったのか!!」

しかし

マダラ「は？何の事だ？」

ヤイバ「とぼけるな!!」

ヤイバは距離をとり剣に雷の力をためる。

ヤイバ「ライダーズラツシュ!!」

しかしヤイバの攻撃はかわされた。

マダラ「一体何の事だ？誘拐事件なんて知らないなあ。」

榊原「・・・可笑しいな。」

アイリ「マダラは本当に・・・犯人じゃない？」

マダラ「まあ良い、死ね!!」

マダラは針を飛ばしヤイバを襲う。

ヤイバ「ぐあ!？くそっ!!」

するとヤイバは不死鳥の力、サンスティックをバツクルにつけた。

「change SUN!!」

マダラ「ほお、炎のヤイバか。」

ヤイバ「来い!!」

マダラは攻撃をしかけるがなんなくかわされヤイバは炎の翼を広げて空高く飛んだ。

マダラ「おのれ!!」

ヤイバ「フェニックス・スラッガー!!」

ヤイバは大回転しながら炎をまといマダラに突っ込んだ。

マダラ「ぐっ!? 覚えている!!」

マダラは何とか受け止めたが体にそつとつなダメージを受け逃げ出した。

.....

蒼牙「ああ、疲れた。」

榊原「しかし犯人が奴ではないとなると誰が.....」

アイリ「.....?」

アイリはしばらく頭の中を整理した。

誘拐、命令、同じ学校、私達の協力.....

アイリ「榊原さん、あなたに私達の協力の命令を出した人の年齢ってわかります？」

榊原「え？ああ、あの人はかなり優秀でな、25歳にしてかなり上の地位を手に入れた人だよ。」

蒼牙「アイリ・・・まさか」

アイリ「ええ、わかったわ犯人が！！」

K A M E N
R I D E R
Y A I B A

n e x t e p i s o d e
...

EP9 潜入捜査！！蒼牙が先生、アイリは学生！？（後書き）

次回、仮面ライダーヤイバ！！

蒼牙「犯人って誰なの？」

アイリ「自分から姿を現すわ。」

榊原「何であんたが！？」

マダラ「お前、いつの間に！？」

EP10 犯人(前書き)

仮面ライダーヤイバ!!前回のあらすじ

蒼牙「行方不明事件？」

榊原「協力してくれ。」

マダラ「誘拐?何の事だ？」

アイリ「わかったわ!!犯人が!!」

EP10 犯人

榊原「犯人がわかった!？」

アイリの一言に驚愕した榊原と蒼牙。

アイリ「明日話すわ。」

蒼牙「今じゃダメなのか？」

アイリ「ダメじゃないけど、直接犯人を見た方が良いでしょう？」

.....

EP10 犯人

翌日、放課後2人は学校の屋上にいた。

蒼牙「で・・・犯人って一体？」

アイリ「まあ、直に姿を現すわ。」

その時、屋上に通じる扉から誰かが入ってきた、榊原だった。

蒼牙「えっ!?!?榊原さん!?!？」

榊原「ん?」

アイリ「違う違う(汗)。」

.....

数時間後・・・

蒼牙「なあ、本当に来るのか？」

アイリ「しっ！」

その時、屋上の扉が開いた。

榊原「あつ、あなたは。」

それは榊原に命令を出した上司の福山だった。

福山「なんだ？榊原、私に何かついてるか？」

榊原「え？いえ・・・」

すると

アイリ「現れたわね犯人さん。」

「！！！！」

アイリの一言に一同は驚愕した。

蒼牙「ちょっとアイリ何言ってるの！？」

榊原「アイリさん！！やぶから棒に何を！？」

福山「犯人？一体何を・・・」

アイリ「あなたは榊原さんに、行方不明事件に誰かを協力させるように言ったのよね？・・・市民を守る警察がわざわざそんな事するかしら？」

福山「確かに私は榊原に誰かを協力させるように言った、それが事件を解決させる最善の策だと思ったからだ、だから榊原は君達を協力させ一緒に犯人を探していたのだろう？」

蒼牙「？」

榊原「はい、アイリさんダメだよいきなり福山さんを疑ったりしちゃう。」

すると

蒼牙「榊原さん、福山さんは何でここに？」

福山「！」

榊原「え？いや・・・福山さんにも事情が・・・」

蒼牙「でも福山さんって結構偉い人なんですよね？だったら事件の調査とはいえまだ何も起きてない学校に来るもんなんですか？普通は部下に任せると思いますが。」

榊原「たっ、確かに・・・」

福山は何故か慌てていた。

福山「ぶっ、部下ばかりに頼るより自ら行動するのが良いと思ったんだ、榊原！何故こんな失敬な奴らに協力させた!？」

榊原「すっ、すみません!！」

その時

蒼牙「榊原さん、僕たちが協力したこと伝えたんですか？」

榊原「え・・・あっ!？」

福山「!？」

アイリ「何故伝えてもない事を知ってるのかしら？」

福山「・・・」

榊原「福山さん、あなた・・・」

すると福山は不気味に笑いはじめた。

福山「ははは、なんだ、わかってたかあ。」

福山の姿はみるみる変わっていき怪人の姿に変わった。

榊原「そんな・・・」

蒼牙「2人共離れて!!変身!!！」

「change YAIIBA!!」

蒼牙はヤイバに変身した。

怪人「私はモグル様に作られたマード！死ね！！ヤイバ！！」

ヤイバ「はあ！！」

ヤイバはマードに掴みかかり屋上から飛び降りた。

アイリ「榊原さん！！私達も！！」

榊原「ああ。」

.....

ヤイバ「ふっ！だあ！！」

マード「無駄無駄！！」

ヤイバは打撃を与えていくが全て受け止められてしまう。

ヤイバ「当たんねえな・・・よし。」

ヤイバはダッシュステイクをバックルにつけた。

「change dash!!」

ダッシュフォームの高速攻撃で応戦していく。

マード「グッ！」

ヤイバ「だだだだだだだ！でりゃあ！！」

アイリ「おしてるわね。」

榊原「福山さん、何で・・・」

するとマードは

マード「福山か・・・あいつは俺に食われたぜ。」

ヤイバ「！」

榊原「どっ、どっという事だ!？」

マード「俺達プロトの怪人は人間が餌でなあ、隙を見て食っちゃまったよ。」

榊原「そんな・・・」

榊原は崩れ落ちた、その時

ヤイバ「おい・・・」

マード「ん？」

ヤイバの拳には雷が走っていた。

マード「がは!?!」

ヤイバの拳はマードの体を貫通させた。

ヤイバ「今日がお前の命日だ……」

マード「!」

マードは爆散した。

ヤイバ「榊原さんの心の痛みはこれ以上だ、あの世で詫びろ。」

……

マードが誘拐した学生は福山の家で監禁されていたが全員無事に救出された。

榊原「武藤……ありがとな。」

蒼牙「何言ってるんですか……僕は当然の事をしただけですよ。」

榊原「……よし、今日は思いっきりおごってやる。」

蒼牙「やった!?!」

仮面ライダーヤイバ

EP10 犯人(後書き)

次回!!! 仮面ライダーヤイバ!!!

??? 「蒼牙、久しぶりだな。」

蒼牙「龍一!?!」

アイリ「あの男、怪しいわね。」

榊原「ヤイバが・・・負ける?」

龍一「蒼牙、これがお前を目標にした・・・俺の力だ!!!」

ヤイバ「もう1人の・・・仮面ライダー?」

EP11 もう1人の仮面ライダー（前書き）

これまでの仮面ライダーヤイバ！！

ヤイバ「誰にもあんな思いをさせたくないから。」

アイリ「あなたが犯人よ！！」

榊原「何で、あなたが・・・」

はたして、今回ヤイバに待ち受けるものは！？

EP11 もう1人の仮面ライダー

プロト本部

マダラ「やはり、ヤイバはこの計画の邪魔になる。」

カーズ「早い所始末しなくては。」

モグル「もう俺達でヤイバを倒そう。」

.....

EP11 2人目の仮面ライダー

蒼牙「・・・よし!!だあ!!」

アイリ（蒼牙!!ダメ!!）

榊原「やめろおおおお!!」

パチッ

少年「いえ〜い!!おじちゃんの負け〜」

蒼牙「おっ、おじちゃん!?!」

蒼牙は世間では静電気青年と顔が広い、近所の少年とメンコで遊んでいた。

榊原「だからやめると言ったのに。」

アイリ「馬鹿ねえ。」

少年「おじちゃん、アイス一本ね。」

蒼牙「だって榊原さん。」

榊原「お前だろ!？」

.....

蒼牙「はあ、何であんな勝負受けたんだろ。」

アイリ「あんたねえ。」

榊原「まったく。」

その時

????「そういう性格は変わらないな、蒼牙。」

蒼牙「？」

蒼牙が振り向くと空手の名人のような風格の男がいた。

????「久しぶりだな。」

蒼牙「龍一!？」

アイリ「蒼牙?この方は?」

蒼牙「俺の幼なじみ、炎舞龍一だよ!!」

榊原（炎舞龍一？）

その男は蒼牙の幼なじみの炎舞龍一、2人が小さい頃龍一は遠くへ引越してしまっただが成長した今戻ってきたのだ。

龍一「あれから15年ぶりか、紗耶香は元気か？」

アイリ「！」

蒼牙「紗耶香は・・・」

蒼牙は龍一に打ち明けた。

龍一「・・・そんな、紗耶香が・・・」

蒼牙「俺が悪かったんだ・・・俺が」

龍一「なあに、事故だったんだ、仕方ないだろう。」

蒼牙「でも 龍一「ストップ!!」・・・？」

龍一「謝るなよ、お前のせいじゃないんだから、紗耶香もわかってるはずだ。」

蒼牙「龍一・・・ありがとう。」

アイリ「良い友達を持ったわね。」

.....

その頃

マダラ「完成したぞ、最高の怪人が。」

カーズ「なんておぞましい姿なの。」

モグル「だがこれならいけますね、マダラ様。」

マダラ「ああ、行け！！ジャガルガー！！」

ジャガルガー「ぐおおおお！！」

.....

龍一「蒼牙、お前は今何をやっているんだ？」

蒼牙「フリーターかな。」

アイリ「(汗)」

蒼牙「龍一、君は？」

龍一「俺は.....」

その時、龍一は何かを感じ取った。

龍一「危ない！！」

蒼牙・榊原「うお!?!」

アイリ「きゃあ!?!」

龍一「ぐあ!?!」

2人をかばった龍一は何かに切りつけられた。

蒼牙「龍一!?!」

アイリ「プロトよ!?!」

龍一「プロト?」

榊原「龍一君は離れて!?!」

蒼牙がベルトをつけると怪人ジャガルガーが姿を現した。

蒼牙「あいつか、変身!?!」

蒼牙はヤイバに変身した。

龍一「なっ!?!」

龍一は驚愕した、自分の友人が見たことのない姿に変わったからだ。

アイリ「龍一さん!?!早く!?!」

.....

ヤイバ「はっ!!だぁ!!」

ジャガルガー「キシヤアアア!!」

ジャガルガーはとてつもない反射神経で攻撃をかわし攻撃仕返す。

ヤイバ「うわっ!?!早い・・・よし!!」

ヤイバはダッシュステイクをつけた。

「change dash!!」

ダッシュフォームの高速攻撃を仕掛けるがそれすらかわされてしま
う。

ヤイバ「なんて早さだ!?!」

そこにマダラが現れた。

マダラ「どうだ、ジャガルガーの力は?」

ヤイバ「マダラ!?!」

龍「あいつは・・・」

アイリ（まずい、このままじゃ・・・）

マダラ「そいつは野生のジャガーを改造し野生本能を高めた最高傑
作だ、死ね!!」

ジャガルガー「グガアアア!!」

ヤイバ「なっ、ぐあ!?!」

ヤイバはマダラとジャガルガーの攻撃におされ、ついに変身が解けてしまった。

蒼牙「!?!」

アイリ「変身が!?!」

龍一「・・・」

マダラ「今日がヤイバの命日だ!?!」

蒼牙「くっ!」

もうダメだと思ったその時龍一が飛び出した。

龍一「やめてもらおうか?」

ジャガルガー「?!」

マダラ「何だ貴様?」

蒼牙「龍一!?!逃げて!?!」

しかし

龍一「武藤、俺はいつもお前に助けてもらったな、今度は・・・俺が。」

龍一の手には赤い横長のバックルを持っていた、それをベルトとしてつけた。

マダラ「なんだ？」

アイリ「あれは・・・何？」

榊原「何をする気だ？」

龍一「蒼牙、これがお前を目標にした・・・俺の力だ!!」

龍一は腕に付けていたリングを外し前に突き出した。

龍一「変身!!!」

龍一はリングをバックルにはめた、すると龍一の姿は炎に包まれた。

マダラ「!!!」

蒼牙「まさか!？」

アイリ「そんな!？」

龍一「ハア!!!」

龍一は炎を振り払うと黒いからだに赤い装甲、白いマフラー、赤い仮面に黒いゴーグル、頭には赤い刃のようなものに耳元には赤い突

起、龍一は仮面ライダーに変身したのだ。

マダラ「貴様、ヤイバではないな。」

蒼牙「もう1人の・・・仮面ライダー。」

アイリ「あれは・・・」

蒼牙「龍一・・・お前、仮面ライダーだったのか。」

龍一「仮面ライダー？へえ、かつこいいな。」

するとジャガルガーが攻撃を仕掛けてきた。

榊原「危ない！！」

しかし龍一はジャガルガーの攻撃を受け止めた。

ジャガルガー「ぐうう！！？」

マダラ「ジャ、ジャガルガーの攻撃を受け止めただと！？」

龍一「随分と親友を傷つけてくれたな、今度は俺の番だ！！」

龍一の拳から炎が放たれジャガルガーを殴りつける。

ジャガルガー「ゲギヤア！？」

マダラ「あのジャガルガーを・・・貴様、何者だ。」

龍一「教えてやる、信じるは己の体のみ・・・武器に頼らず全てを貫く、俺は・・・仮面ライダーケン!!」

K A M E N R I D E R Y A I B A
n e x t e p i s o d e ...

EP11 もう1人の仮面ライダー（後書き）

次回、仮面ライダーヤイバ!!

龍一「プロトには恨みがある、蒼牙には協力できない。」

蒼牙「くそおおお!!」

アイリ「このままじゃあなたも!?!」

蒼牙「もう誰も死なせない!!」

ケン「俺の拳は冷えないぜ。」

EP12 2人、思い出の技

EP12 2人 思い出の技(前書き)

仮面ライダーヤイバ!!前回までのあらすじ

蒼牙の幼なじみ炎舞龍一が現れた!

龍一「久しぶりだな。」

蒼牙「龍一!?!」

プロトの怪人ジャガルガーに苦戦するヤイバ!!

ヤイバ「くそお。」

しかし龍一は仮面ライダーだった!!

ケン「俺は、仮面ライダーケン!!」

EP12 2人 思い出の技

マダラ「仮面ライダー・・・ケンだと？」

ケン「どおやらお前を殴らないと、俺の熱を冷めないみたいだ。」

ジャガルガー「ぐヴ!!」

蒼牙「龍一が、仮面ライダー・・・」

アイリ「仮面ライダーがもう1人いたなんて。」

榊原「それにしても熱いなあいつ。」

マダラ「一旦退くか。」

ジャガルガー「ギャギャ!!」

マダラとジャガルガーは姿を消した、ケンは変身を解いた。

龍一「大丈夫か？」

蒼牙「ああ。」

.....

EP12 2人 思い出の技

龍一、蒼牙、アイリ、榊原は近くの広場にいた。

龍一「まさかお前も変身してあんなのと戦ってたとはな、正直驚いたよ。」

蒼牙「それはこっちのセリフだよ！？まさか転んで泣いてたお前が仮面ライダーになるなんて。」

龍一「あのなあ（汗）、引越してから強くなるために空手を始めてようやくここまでできたんだ。」

アイリ「でもあの怪人をあんな簡単に。」

龍一「そうでもないよ？かなり精神を集中させないといけないからね、けっこう疲れるんだよ。」

すると榊原が

榊原「思い出した！！5年前に世界空手大会優勝し突然姿を消した炎舞龍一、君の事か！？」

龍一「そんな昔の事よく知ってますね。」

一同は驚愕した。

蒼牙「ええ！？あのちょっとビビらしたらおもしろしてた龍一が世界チャンピオン！？」

龍一「だから余計だって！！」

アイリ「凄い・・・。」

蒼牙「それにしてもお前、何で仮面ライダーに？」

龍一「・・・お互い理由は同じかもな。」

榊原「という事は、君も改造人間？」

龍一「ああ、2年前かな・・・なんちゃらハーレムとか作ろうとしてるメガネ野郎に騙されて改造されちゃった、そのメガネの組織はこの世界には存在しないらしい。」

アイリ「じゃあ、異世界に連れて行かれたの？」

龍一「多分な、今度会ったら殴り飛ばすけどな、今はプロト壊滅に手を貸すよ。」

蒼牙「ありがとう、龍一！！」

しかし

榊原「残念だが、それは出来ない。」

アイリ「え？」

蒼牙「榊原さん、何を？」

龍一「・・・待ってはくれないのか？」

榊原「出来ないな、炎舞龍一・・・殺人容疑で逮捕する。」

蒼牙・アイリ「!?!」

なんと龍一は殺人容疑で逮捕されてしまった。

.....

プロト本部

カーズ「大丈夫? ジャガルガー?」

ジャガルガー「クウ〜ン。」

モグル「こいつカーズの前だと甘えん坊だな。」

マダラ「やはりそういう本能は消せないか、まあ良い・・・しかし
仮面ライダーケンか、何者だ?」

モグル「聞いた事あります、何でもスーパーネガシヨッカーとかい
う異世界に存在する組織に改造されちまったとか。」

マダラ「なるほど、ヤイバ以外にも邪魔が誕生してしまったという
わけか。」

カーズ「急いでヤイバの力を奪い返し首領を復活させなくては・・・
そういえば首領には実体が無いのですよね。」

モグル「首領の体となる器はあるのですか?」

マダラ「ああ、5年前に山の近くに転がっていた死にかけの女の体
を手に入れ保存している、首領と波長が合うとても良い器だ。」

.....

警察署

蒼牙「榊原さん！！どういう事ですか！？龍一が殺人容疑って一体！？」

榊原「・・・一週間前、ある家族が皆殺しにされた事件が起こった、そして現場を調べたところ・・・誰かの指紋が発見された。」

アイリ「指紋ですか？」

榊原「そうだ、あの家に龍一が来たという目撃証言が集まり、奴の実家で捜査をしたところ・・・同じ指紋が検出された。」

蒼牙はまだ事実を信じる事が出来なかった。

蒼牙「龍一は、人を殺すような奴じゃない・・・龍一はどうなるんですか？」

榊原「家族皆殺しとなればかなりの重罪、裁判にかけられれば・・・死刑。」

蒼牙「そんな・・・」

蒼牙は崩れたが榊原が続けて言った。

榊原「しかしな、俺はあいつが犯人だとは思っていない。」

アイリ「え？」

榊原「あいつはさつき、自分に傷をつけてまで俺たちを助けた、そんな奴が人殺しなんてできるはずがない。」

蒼牙「榊原さん……」

その時、警察署の外から騒がしい声が聞こえてきた。

榊原「なんだ？」

外を見るとそこにはモグルとジャガルガーがいた。

モグル「こら！！何で俺だと不満げなんだよ！？」

ジャガルガー「グルルル……」

警察「くっ、来るな！？」

警察達が拳銃を撃ち出すがモグルの体で銃弾は弾かれ、ジャガルガーの爪で簡単に防がれてしまう。

アイリ「蒼牙！！」

蒼牙「わかってる！！……あっ、ちよっとごめんなさい。」

パライイイン！！

蒼牙はベルトをつけると窓をぶち破った。

榊原「何iiiiiiii!?!」

蒼牙「変身!?!」

「change YAIIBA!?!」

ヤイバは剣でモグルを斬りつけた。

モグル「ぐは!?!あつ、ヤイバ!?!」

ジャガルガー「キシヤアアア!?!」

ヤイバ「行くぞ!?!」

.....

その頃

榊原「どうだ?豚箱の気分は?」

龍一「悪くない、でもここで一生を終えてもなあ。」

アイリと榊原は捕まった龍一の様子を見に来た。

龍一「そういえばさっき、外が騒がしかったな。」

アイリ「プロトが現れたの。」

龍一「大丈夫なのか?」

榊原「さあな、心配か？」

龍一「当然！！親友だからな。」

すると榊原は

榊原「なら安心だ、そんなお前が人殺しなんてできるはずがない。」

榊原は懐から鍵を取り出し開けた。

アイリ「榊原さん！？」

龍一「あんた、そんな事したら・・・」

榊原「しっ！さっさと行け、親友が困ってるぞ？」

龍一「・・・感謝するよ。」

龍一は飛び出した。

・・・

ヤイバ「うわあああ！？」

ヤイバは苦戦を強いられていた、モグルの地中攻撃、ジャガルガの俊足攻撃に対処しきれないのだ。

ヤイバ「くっ、はあ！！」

モグル「おっと、おらっ！！」

ジャガルガー「キシヤアアア!!」

ヤイバ「ぐあああ!?!」

ヤイバは殴り飛ばされる。

ヤイバ「くそ・・・」

モグル「今日こそヤイバの最後だあ!!」

モグルが攻撃を仕掛けようとしたその時

「変身!!」

炎の鉄拳がモグルを殴りつけた。

モグル「ぎゃあ!?!あつ、貴様は!?!」

龍一はケンに変身してヤイバの助太刀に来たのだ。

ヤイバ「龍一、大丈夫なのか?」

ケン「当然、立てるか?」

ヤイバ「ああ。」

ヤイバは立ち上がりケンに並ぶ。

ヤイバ「行くぞ!!」

ケン「OK!!」

ケンはモグルを数発殴りつけた後上空からヤイバが剣で斬りつける、ジャガルガーが攻撃を仕掛けてきたがケンは全て受け止め最後の一撃を受け流すと同時にかかと落としでジャガルガーを地面に叩きつける、モグルはヤイバに地中攻撃を仕掛けようとするが

ヤイバ「よし、しびれる!!」

ヤイバはモグルが掘った穴に向かって電流を流した。

モグル「ぐああ!?!」

モグルは飛び出てきた。

ケン「とどめだ!!」

ケンはバツクルのリングを回すと拳に凄まじい炎が集まる。

ケン「でりゃああああ!!」

ケンはジャガルガーを殴りつけ爆散させる。

モグル「ジャガルガー!?!」

モグルは逃げようとするがヤイバは雷を集めた剣を突き刺し動きを止める。

モグル「うっ、うごかない!?!」

ヤイバ「よし、とどめを・・・」

ケン「蒼牙、あれやるぞ。」

ケンはいきなりヤイバに言った。

ヤイバ「あれ？・・・はあ、覚えてたのか。」

ケン「当たり前だ。」

ヤイバ「あれやるのか？体覚えてるかわかんないぜ？」

ケン「大丈夫、何人のガキ大将倒したんだ？」

ヤイバ「仕方ない。」

「Y A I B A c h a r g e ! !」

ヤイバは足に雷を集め、ケンも足に炎を集める。

ケン「はあ！！」

ケンは大きく踏み出しモグルの目の前まで接近しヤイバは高く飛び上がる。

モグル「やめろおおお！！？」

ヤイバ・ケン「俺達は必殺技！！スーパー連続蹴りアタアアック！！！」

ケンは重たい一撃をモグルに浴びせヤイバはモグルの懐にキックを浴びせた。

モグル「ぎゃあああああああああ！？」

モグルは爆散した。

ケン「ふう、前より良くなってるんじゃないか？」

ヤイバ「そうか？」

2人は変身を解いた、そこにアイリと榊原が駆けつけた。

榊原「龍一、喜べ真犯人が逮捕されたぞ。」

蒼牙「本当に！？」

アイリ「ええ、龍一の取り調べをしていた人が犯人だったの。」

龍一「作戦成功だな。」

アイリ「作戦？」

龍一「実は俺な、ほれ。」

龍一はなんと警察手帳を出したのだ。

アイリ「ええ！？」

蒼牙「龍一が、警察!？」

榊原「そう、龍一はこっちに派遣された新米でな、さっきまでの2人の芝居だ。」

蒼牙「じゃあ空手大会優勝っていうのは!？」

龍一「それは本当。」

アイリ「とりあえず、ついに幹部の1人モグルを倒したわね。」

龍一「どうせならアジト聞いてから倒せば良かったな。」

.....

プロト本部

マダラ「モグルが死んだか。」

カーズ「どうされますか？」

マダラ「実はな、ヤイバの力でなくても首領を復活させる事ができるかもしれないんだ。」

カーズ「!!!」

マダラ「器に不思議な力があってな、まあ詳しく調べる。」

仮面ライダーヤイバ

EP12 2人 思い出の技（後書き）

次回、仮面ライダーヤイバ！！

蒼牙「り、旅行？」

アイリ「行こう！！行こう！！」

マダラ「ついに、発見した！！首領復活の鍵だ！！」

近々今更だけど人物紹介を投稿します。

今更ながらの人物紹介

武藤蒼牙

本作の主人公、仮面ライダーヤイバに変身する、22歳、体に静電気がたまりやすい体質をもつフリーターである。しかしその体質はプロトにより改造人間にされてしまった事が原因である。

幼なじみの紗耶香を事故により失っている、決め台詞は「今日が前の命日だ。」しかし最近は言わない。

アイリ

20歳、プロトの一員だったが組織を裏切り首領復活の鍵であるヤイバの力を持ち去った。

そして蒼牙にヤイバの力を与えた、蒼牙に密かに恋心を抱いている。

榊原

35歳、警察署の警部、ヤイバの正体を知り支える人物の1人、蒼牙にしょっちゅうファミレスをおごらせられる。

炎舞龍一

21歳、蒼牙の幼なじみで小さい頃よく蒼牙、紗耶香、龍一で遊んでいたが父親の転勤で遠く引っ越してしまう。

実は龍一は仮面ライダーケンだった。

龍一はスーパーネガシヨッカーの鳴滝に騙されて改造人間にされてしまっていた、鳴滝に会う次第殴り飛ばすらしい。

マダラ

プロトの大幹部、幹部1の強さをほこる、主に超能力を駆使用する、マダラの作りだす怪人はかなりの強敵

カーズ

プロトの幹部、プロトただ1人の女であり自分の影を実体にする事ができる。

作りだす怪人は主に水中を得意とする。

モグル

プロトの幹部、怪力で地中が得意、作りだす怪人は地中が得意である。ヤイバとケンの協力技で倒された。

首領

正体不明、実体がなくある女の体を器にするらしい。

EP13 旅行も戦い(前書き)

これまでの仮面ライダーヤイバ!!

龍一「これがお前を目標にした俺の力だ!!」

マダラ「仮面ライダーケンだと？」

蒼牙「行くぞ龍一!!」

今回、ヤイバに待ち受けるものとは!?

EP13 旅行も戦い

ある日

榊原「ふふん。」

蒼牙「なっ、なしたんすか榊原さん？」

榊原「見るがいい!!」

テンション高く榊原が出したのはチラシと宝くじだった。

蒼牙「沖縄旅行？」

アイリ「当たったんですか!？」

榊原「そう!!自分も信じられないけど5人組で当たったんだよ!!」

アイリ「行こう!!行こう!!」

蒼牙「よし、龍一も誘って行こう!!」

.....

EP13 旅行も戦い

龍一「嫌だ。」

蒼牙「え！？なん・・・ああ、そうだった忘れてた。」

アイリ「何が？」

蒼牙「こいつ、高所恐怖症なんだ。」

榊原「高所・・・恐怖症だと？」

龍一「何が悪い！？」

アイリ「悪くはないわよ、でもまさか本当に？」

龍一「本当だよ、小さい頃ウルランの真似して高い所から落ちたんだ／＼／＼／＼」

榊原「じゃあ船で行くか。」

龍一「もつとダメだ！！」

蒼牙「え？お前水なら大丈夫だろ。」

アイリ「引っ越した後に何か？」

龍一「引っ越して一週間後、ゴラの真似して溺れた事がある。」

一同「（汗）。」

するとアイリが

アイリ「旅行はいつ何ですか？」

榊原「一応明後日を予定してるが？」

アイリ「じゃあまかせて。」

蒼牙「何か作戦があるのか？」

アイリ「もちろん、龍一良いわね？」

龍一「俺に質問するな！！」

榊原「どこぞの赤い奴みたいな事を言うな！！」

・・・

プロト本部

カーズはモグルの遺品を焼いていた。

マダラ「カーズ、何をしている？」

カーズ「モグル・・・良い奴だったわね。」

マダラ「・・・まさか、モグルがいないとダメなのか？」

カーズ「何言ってるのよ、ちゃんと次の怪人も送ったわ、それより首領復活の件、どうなの？」

マダラ「大体つかめてきた、器の詳細もな。」

マダラは首領の体になる器の詳細を調べていた。

カーズ「器について調べていたの？」

マダラ「ああ、不思議だったからな器の名前は確か・・・紗耶香だったか？」

カーズ「紗耶香？」

・・・

旅行当日

龍一「おいおい、一応来たがやっぱり飛行機じゃないか。」

蒼牙「アイリ、どうするつもり？」

アイリ「見てて、ふんぬ！！」

龍一「ぐふっ！？」

アイリは龍一の溝にせいけんづきを繰り出し気絶させた。

榊原「ちょっと何やってんの！？」

アイリ「今のうちに飛行機に乗るわよ！！」

蒼牙「強引な。」

2時間後

榊原「青い海!!」

アイリ「緑の自然!!」

蒼牙「ウチナンチュ!!」

龍一「・・・ん?ここは?」

龍一は目を覚ました時には既に沖縄に到着していた。

龍一「強引すぎるだろ。」

アイリ「仕方ないじゃない。」

榊原「さてさて2泊するわけだが、どうする?」

蒼牙「やっぱり沖縄をといえは ????」プロト「そうそうプロト、プロト・・・へっ!?!?」

蒼牙が振り向くとそこにはカーズの怪人シャーギイがいた。

シャーギイ「ヤイバ、倒す!!」

龍一「少しは休ませろ!!変身!!」

蒼牙「すぐに片付ける!!変身!!」

「change YAIIBA!!」

2人は変身しシャーギイに攻撃を繰り返す。

シャーギイ「ヤイバ!!! 覚悟!!!」

ケン「おらっ!!!」

ヤイバ「はっ!!!」

ケンはシャーギイを殴り、ヤイバはシャーギイを斬りつける。

シャーギイ「ぐぬぬ、覚えてろ。」

シャーギイは海に飛び込みにげた。

龍一「たく、せっかくの旅行だっていうのに。」

蒼牙「とりあえずゴーヤーチャンプル食べに行こう、体を休めたいし。」

アイリ「でもこんな所にまでプロトが来るなんてね。」

榊原「宿でゆっくりしよう。」

n
e
x
t

e
p
i
s
o
d
e
...

EP13 旅行も戦い（後書き）

次回、仮面ライダーヤイバ!!

カイズ「さあて、ヤイバとケンの最後よ。」

ケン「くそお！」

アイリ「あなたは諦めるって言葉はないのね。」

榊原「とことんやってこい。」

ヤイバ「2つの炎の力、見せてやるよ!!」

EP14 ツイン・フレイム・イン・沖縄

EP14 ツイン・フレーム(前書き)

仮面ライダーヤイバ!!前回までのあらすじ

蒼牙達は沖縄に旅行に行った!!

蒼牙「沖縄旅行？」

アイリ「ふんぬ!!」

龍一「ぐほ!？」

榊原「何を!？」

沖縄にもプロトの怪人いた!!

シャーギイ「ヤイバ、倒す。」

EP14 ツイン・フレイム

一同は沖縄に旅行に来ていた、そして最終日

蒼牙「いやあ、ゴーヤーチャンプルおいしかった〜。」

アイリ「ゴーヤージュースは吹き出しちゃったわ。」

榊原「あんないつきに飲むからだよ。」

龍一「・・・アイリ。」

アイリ「ん？何？」

龍一「また俺を気絶させるのか？」

アイリ「何当然の事聞ってるのよ？」

龍一「はあ。」

EP14 ツイン・フレイム・イン・沖縄

プロト本部

マダラ「カーズ、貴様の怪人がやられたようだな。」

カーズ「申し訳ありません、しかし死んではいません、まだチャンスは・・・。」

マダラ「チャンス？ そうだな、しかしまた失敗したら次はないと思え。」

カーズ（くっ！）

.....

カーズ「なんとしても、なんとしても奴を倒す・・・でもどうすれば・・・」

するとそこに灰色のオーロラが現れそこから包帯だらけの男が現れた。

カーズ「なっ、何者だ!？」

鳴滝「私は鳴滝、仮面ライダーケンの生みの親だ。」

カーズ「貴様が、一体何の用だ!？」

鳴滝「色々な世界でボコボコされてケンにまで殴られたらひとまりもない、これを使え、どんな怪人も融合でき強力な力を発揮できる。」

鳴滝はカーズに矢のような物を渡し消えた。

カーズ「何だあいつは・・・強力な力？」

.....

榊原「よし、乗るぞぞ。」

アイリ「龍一、覚悟!!」

龍一「ひいいい!!」

するといきなり飛行機が爆発した。

蒼牙「うわあ!?!何だ!!」

爆発の中から怪人シャーギとその生みの親カーズが現れた。

アイリ「カーズ!?!」

カーズ「ヤイバ、今日こそ貴様を倒す!!」

カーズは鳴滝からもらった矢をシャーギに突き刺した、するとシャーギは矢に取り込まれた。

龍一「怪人が!!」

榊原「取り込まれたと!?!」

そしてカーズは矢を自分の体に突き刺しシャーギのエネルギーを取り込んだ。

カーズ「ああああああ!!」

カーズは痙攣しだし体が突然変異した。

蒼牙「なんだよ・・・おい。」

カーズ? 「ああああ・・・はははははは!! 素晴らしい、素晴らしい力だ!!」

カーズの体は以前とは比べものにならない程巨大でおぞましい姿になった。

カーズ「死ね・・・ヤイバ!!」

蒼牙、龍一「変身!!」

「change YAIIBA!!」

蒼牙はヤイバに龍一はケンに変身しカーズに向かって身構える。

カーズ「はああああああああああ!!」

カーズは手を振り回す、ヤイバとケンは榊原とアイリを抱えてその場から離れたがそこには大きなクレーターが出来た。

ケン「なんてパワーだ・・・当たったらひとたまりもないぞ!!」

ヤイバ「やるしかない!!」

ヤイバは剣でカーズの手を斬りつけるがびくともせずヤイバは巨大な手で掴まれた。

ヤイバ「なっ!ぐああああ!!?」

ケン「放しやがれ!!」

ケンは拳から炎を放ちカーズの手を殴りつける。

カーズ「うおおおおおおおん!!」

榊原「様子がおかしいぞ。」

アイリ「あまりにも強力な力で本人も制御できないんだわ!？」

そう、カーズの体は既に強力な力に蝕まれ自我を保てない状態だった。

ヤイバ「すまない、龍一。」

ケン「良いよ、しかしどうする?あんな巨大な敵・・・倒せるのか?」

ヤイバ「こうなったら必殺技を同時に放ってみよう。」

ケン「よし。」

ヤイバは足に雷のエネルギーを溜め、ケンは足に炎のエネルギーを溜める。

ヤイバとケンは高く飛び上がった。

ヤイバ「ライダーキック!!」

ケン「ライダークラッシュ!!」

ヤイバは雷の蹴りを放ち、ケンは炎のかかと落としを繰り返す、し

かしカーズは口から大量の水を吐き出した。

ケン「うわ！？汚っ！？」

ヤイバ「まっ、まずい！」

カーズは手を振り下ろし2人を叩きつけよつとするが

「change SUN!!!!」

ヤイバはサンモードになり炎の翼を広げケンを抱えてかわした。

ケン「サ、サンキューな。」

ヤイバは着地する。

ヤイバ「ああ、たく骨が折れるぜ。」

カーズ「ヤイバアアアアアアア！」

ケン「もててるな。」

ヤイバ「止めてくれ・・・よし、2つの炎の力・・・見せてやろっぜ!!!」

ケン「！、よおし!!!」

ヤイバはサンセイバーを構える、ケンはリングを大回転させ両手から炎を放ちサンセイバーに力を与えた。

カーズは爆散した、それと同時に2人の変身は解けて倒れてしまった。

アイリ「蒼牙！！龍一！！」

.....

プロト本部

マダラ「ははは、モグルとカーズは死んだ・・・計画通り、首領復活は近い、モグルのカーズのエネルギーを器に流し込めば・・・」

.....

龍一「・・・ん、ん？」

蒼牙「ここは？」

榊原「気がついたか。」

2人は目を覚ました。

アイリ「大丈夫？」

蒼牙「ああ、んゝなんか疲れたなあ。」

龍一「あんな力使ったんだ、当然だろ・・・そういえばここは？」

アイリ「飛行機の中。」

EP14 ツイン・フレ임(後書き)

次回、仮面ライダーヤイバ!!

????? 「気をつける。」

アイリ 「何?あの人?」

マダラ 「首領復活の時まで頼むぞ。」

龍一 「黒いヤイバだと!?!」

蒼牙 「俺自身だって?」

緊急予告!!!

アंक 「どうやら俺の知らないコアメダルがあるみたいだなあ。」

映司 「何だこの力・・・」

仮面ライダーオーズ、強大な欲望から作られしコアメダル。

アイリ 「教えてくれ、お前の過去を。」

龍一 「・・・ああ。」

仮面ライダーヤイバ、仮面ライダーケン・炎舞龍一の知られざる過去。

そして、戦いの舞台は宇宙へ

「ヤイバと一緒に戦おう！」

「オーズくん、当然！！」

仮面ライダー×仮面ライダー
e大戦space ヤイバ&オーズ
movi

続報を待て！！

EP15 黒の雷(前書き)

これまでの仮面ライダーヤイバ!!

蒼牙「沖縄旅行？」

榊原「当たったんだ。」

アイリ「行こう行こう!!」

龍「ぐふっ!?!」

カーズ「ヤイバ、今日こそ倒す!!」

ヤイバ・ケン「スラアアアアシュ!!」

今回、ヤイバに待ち受ける物は!?

EP15 黒の雷

蒼牙の家

沖縄から帰ってきた蒼牙とアイリはというと・・・

蒼牙「ブルブルブルブル!!」

アイリ「ちょっと!?!何でストーブが壊れたのよ!?!」

蒼牙「旅行中つけっぱなしにしてて・・・バーンと。」

蒼牙は旅行に行く際にストーブをつけっぱなしにしてしまい、オーバーヒートしてしまったのだ。

アイリ「バカ、どうするのよ、もう。」

蒼牙「仕方ない、気は進まないけど・・・」

蒼牙はいきなりアイリの手を握った。

アイリ「えっ、ちょっと!?!何!?!」

蒼牙「こうした方が暖かいと思っただけど・・・」

アイリ「//////」

すると

アイリ「アアアア！？久しぶりに静電気きたあああああ！？」

蒼牙「ひいいいい！？電気で手が離れないいいいい！？」

.....

アイリ「はあ、はあ、何よこの時間差攻撃は！？」

蒼牙「ごめん！最近無いから油断した！！」

そこに榊原が蒼牙の家にやってきた。

榊原「うお！？外より中の方が寒いってどういう事だ！？」

蒼牙「さっ、榊原さん！！」

アイリ「助けてください」。

.....

榊原「おいおい、せつかくのストーブを。」

蒼牙「すいません本当に。」

アイリ「仕方ないわね、電気屋さんで探しに行きましょう。」

というわけで2人は電気屋に向かった、その途中蒼牙はある男とぶつかった。

蒼牙「あっ、ごめんなさい！！」

????「気をつける。」

その男は何やら黒いオーラを放っていた。

アイリ「・・・なんか暗い人ね。」

蒼牙「う、うん。」

電気屋

アイリ「う、どれも高いわね。」

蒼牙「なっ、何で俺を見るんだよ!？」

恐らく収入が少ないからだろう、すると

????「おい、この電気は貰えるのか？」

電気屋「えっ、当然ですけど・・・」

????「なら、全て貰う!！」

その男の姿はみるみる変わっていき鳥のような怪人・ラクロウクになっ

「うわああああ!？」

アイリ「蒼牙!！」

蒼牙「え？あつ、プロトの怪人！？」

蒼牙はヤイバスパーカーを取り出す、するとさっきぶつかった男がラクロウクの近くにいた。

蒼牙「あつ、危ない！？」

ラクロウクは男に手をあげようとしたが蒼牙が男を押し倒した、その際にヤイバスパーカーを落としてしまった。

蒼牙「大丈夫？ぐっ！？」

しかし蒼牙は庇う際に腕をやられたようだ。

アイリ「ヤイバスパーカーが蒼牙の手から無くなった、これじゃあ・・・」

するとラクロウクが

ラクロウク「裏切り者アイリ、死ね！！」

アイリ「！」

しかしその時

「おらぁー！！！」

ラクロウク「ぐほ！？」

アイリ「龍ー！！！」

ケン「よお、怪我はないか？」

龍一はケンに変身しアイリを助けた。

ケン「蒼牙！！大丈夫か！？」

蒼牙「大丈夫に……見えるか？」

蒼牙の傷は思ったより深かった。

蒼牙「はやく……バツクルを……ぐっ！？」

蒼牙はヤイバスパーカーに手を伸ばすが腕の痛みでうまく掴めない、すると蒼牙が庇った男がヤイバスパーカーを拾い上げる。

蒼牙「あつ、ありが……」

しかし男はなんと自分にヤイバスパーカーをつけた。

ラクロウク「？」

ケン「なっ！？」

蒼牙「ちよつと！？それは俺の……」

するとアイリが

アイリ「可笑しいわよ！？今のヤイバの力は蒼牙の静電気力で生まれたのに、何で関係もない人がつけれるのよ！？」

蒼牙「たっ、確かに・・・あなたは一体？」

すると男は口を開いた。

????「俺は・・・お前だ。」

蒼牙「え!?!」

????「変・・・身。」

男はゆつくりとヤイバスティックを倒す。

「change SYAIBA!!」

男は聞いた事のない音声と共に黒い稲妻に包まれる。

ケン「馬鹿な!?!」

アイリ「そんな!?!」

黒い稲妻が消えるとそこにはダッシュフォームに類似した黒い体、赤い複眼、赤いマフラー、銀色の三本角のヤイバがいた。

蒼牙「黒い・・・ヤイバ?」

????「違う、俺は仮面ライダー・・・シャイバだ。」

K
A
M
E
N

R
I
D
E
R

Y
A
I
B
A

n
e
x
t

e
p
i
s
o
d
e
:
e

EP15 黒の雷（後書き）

次回、仮面ライダーヤイバ！！

蒼牙「俺自身ってどういう事だ？」

????「気安く話しかけるな。」

マダラ「黒いヤイバか。」

ケン「教える、なにもんだ。」

ヤイバ「あんたは、俺がたすける。」

EP16 もう一人の自分

EP16 もう一人の自分(前書き)

仮面ライダーヤイバ!!前回のあらすじ

謎の男が現れた!

????「気をつける。」

蒼牙「すみません!!」

電気屋にプロト怪人ラクロウクが現れた!!

アイリ「蒼牙あれ!!」

蒼牙「プロト怪人!?!」

謎の男が黒いヤイバに変身した。

蒼牙「黒い・・・ヤイバ?」

????「俺は、仮面ライダー・・・シャイバだ。」

EP16 もう一人の自分

蒼牙「仮面ライダーシャイバ・・・もう一人の俺？」

蒼牙は困惑していた、自分と名乗る男が自分にしか使えないシャイバスパーカーで変身したからだ。

シャイバ「今日は貴様が地獄に落ちる日だ。」

ラクロウク「偉そうに、邪魔をするなら貴様も殺す！！」

ラクロウクはシャイバに攻撃を仕掛けるが何故か予知されているかのようにかわされてしまう。

ラクロウク「なっ、何故だ！何故攻撃が当たらない！？」

シャイバ「教えてやるっ。」

シャイバはそうつぶやくとラクロウクの頭を掴んだ。

アイリ「！？」

ケン「なっ、に？」

蒼牙「怪人の攻撃を、片手で？」

シャイバ「お前は俺より弱いからだ。」

するとシャイバの腕から赤黒い電流が走りラクロウクを襲う。

ラクロウク「ぎゃあああああああ！？」

ラクロウクは消滅した、プロト怪人をいとも簡単に倒してしまったのだ。

蒼牙「なっ、なんて力だ……」

するとケンが

ケン「おい、お前なにもんだ……なぜヤイバの力をつかえる！！」

シャイバはかすかに笑いながら答えた。

シャイバ「言っただろう、これはヤイバではなくシャイバの力だ、それに俺はあいつだからな。」

アイリ「あなたも武藤蒼牙だって言うの？ふざけないで！！」

シャイバ「ふざけてなんかないさ、正真正銘俺はあいつ自身だ。」

シャイバはヤイバスパーカーを外し投げた。

蒼牙「俺自身って……どついう事なの？」

ケンは変身を解いた。

龍一「答える。」

「????」はあ、しつこいな……黒の自分って言えばわかるだろ。」

蒼牙「黒の・・・？」

????「じゃあな。」

????はそう言いその場を去った。

龍一「黒の蒼牙？何なんだ？」

すると

アイリ「・・・もしかして、裏の蒼牙って事？」

蒼牙「え？」

アイリ「つまり今ここに居るのが表の・・・普段の蒼牙、さっきいたのは蒼牙が普段出さない感情から生まれた裏の蒼牙。」

龍一「つまり、全く正反対の蒼牙って事か？」

アイリ「おそろくは。」

蒼牙（裏の・・・俺。）

.....

プロト本部

マダラ「黒いヤイバだと？」

マダラはプロトの怪人から情報を得た。

怪人「奴は我々でもヤイバの仲間でも無いようで・・・しかし現にラクロウク様を倒していて」

マダラ「どの仲間でもないか・・・面白い。」

EP16 もう一人の自分

.....

蒼牙は怪我を手当てし龍一とアイリに捕まり家に行った。

アイリ「榊原さん帰ったみたいね。」

龍一「開けるぞ。」

龍一が蒼牙の家の扉を開けると

????「よお。」

シャイバの変身者がいた、三人は崩れ落ちた。

蒼牙「ななななな何で君が!？」

アイリ「ここは蒼牙の家よ!？　????「俺も蒼牙だ。　龍一「いやそうだけど!！」

アイリ、龍一、????は言葉を重ね重ねに言い張った。

蒼牙「おっ、落ち着いて!!」

.....

アイリ「あなた、蒼牙の裏の感情から生まれたのね。」

????「まあ、そんな感じだな。」

龍一「えーと、裏蒼牙でいいか?」

裏蒼牙「好きにしる。」

蒼牙「君はどうして突然僕の目の前に?」

裏蒼牙「さあな、強いて言うなら・・・何かを嗅ぎつけたって感じだな。」

龍一「嗅ぎつけた?」

裏蒼牙「ああ、おそらくはプロトが首領復活に動いたんだろ。」

アイリ「・・・ねえ、思ったんだけどあなたはいつ蒼牙から生まれたの?」

裏蒼牙「こいつが改造された時かな。」

蒼牙「俺が改造された時か・・・」

すると裏蒼牙は蒼牙に問いだした。

裏蒼牙「お前、改造された後すぐの記憶ないだろ？」

蒼牙「え・・・うん。」

アイリ「どうしてそんな事を？」

龍一「まさかお前・・・」

裏蒼牙「そう、こいつが目を覚まさない間俺が体を少し借りてただ。」

蒼牙「うそ!？」

アイリ「まあ確かに目を覚まさないとはいえ一週間飲まず食わずじやあ死んじゃうわよね。」

蒼牙「そうか、だから知らないバイトのシフトが入ってたりしてたのか。」

裏蒼牙「そういう事だ、んでお前、ヤイバスパーカー貸せ。」

裏蒼牙はヤイバスパーカーを求め始めた。

アイリ「ちょっと、何する気よ。」

裏蒼牙「俺だってそれがないと戦えない、少しコピーさせてもらっただけだ。」

蒼牙「はい。」

龍一「おっ、おい。」

裏蒼牙「Thanks・・・くっ！」

ヤイバスパーカーから裏蒼牙の体に電流が流れる。

裏蒼牙「くううう！・・・ふう。」

裏蒼牙はヤイバスパーカーを返す。

蒼牙「大丈夫？」

裏蒼牙「安心しろ、じゃそろそろ行くか。」

アイリ「どこに？」

裏蒼牙「さすがに三人で暮らすわけには行かないだろ、家を探しに・・・」

すると蒼牙は裏蒼牙の手を掴み始める。

裏蒼牙「なっ、なんだよ!？」

蒼牙「全然大丈夫だよ!!一緒に住もうよ!!」

龍一「おいおいまじか？」

蒼牙「まじまじ!!すごいまじ!!ねえ!?!いいでしょ!?!」

裏蒼牙「おっ、お前が言うなら・・・」

しかし

アイリ「だっ、駄目！！絶対駄目！！！」

アイリは必死に反抗した。

蒼牙「アイリなんで!?!」

アイリ「何が何でも何でも駄目なの!! 駄目なのよ!! (あいつが増えたら蒼牙と2人でいられないからよ……って何!? 何で私こんな事思ってるの!?!)」

裏蒼牙「(危ねえ危ねえ) そいつの言う通りだ、俺はお前と一緒にいてはいけない。」

蒼牙「なんで!?!」

裏蒼牙「それは……」

すると龍一は

龍一「?……外にお客様だぜ。」

アイリ「え?」

4人は外に出るとマダラと倒したはずの怪人ラクロウクが人々を襲っていた。

蒼牙「あいつは!?!」

2人は仮面ライダーに変身しマダラとラクロウクに立ち向かう。

マダラ「ヤイバにケンか、面白い・・・やれ、ラクロウク!!」

ラクロウク「ぐおおおお!!」

ラクロウクは2人に噛みつこうとするがヤイバは剣で受け止め、ケンはラクロウクを殴り飛ばした。

ケン「おるああああ!!」

ヤイバ「はああああ!!」

攻撃を仕掛ける2人だがラクロウクはマダラの攻撃に援護され苦戦を強いられる。

ケン「うお!?!ぐああ!!」

ヤイバ「くっ!!!ぐああ!?!」

アイリ「蒼牙!!龍一!!」

マダラ「死ね、最後だ!!」

マダラは右手に緑色のエネルギーを溜めとどめをさそうとする。

アイリ「そんな・・・」

その時、アイリの隣から電撃音が鳴った。

アイリ「え？」

裏蒼牙には黒いヤイバスパーカーが巻かれていた。

裏蒼牙「お前、首領復活には器が必要って事知ってるよな？」

アイリ「え、ええ……でもなんであなたがそれを？」

裏蒼牙「それがいずれ俺が打ち明けなきゃいけない事だ、その器……らしいぜ。」

アイリ「!？」

裏蒼牙「変……身。」

裏蒼牙は黒いヤイバスパーカー、シャイバボルターについているシヤイバステイツクを倒した。

「change SYAIBA!!」

………

ケン「さすがに2匹はつらいな……」

ヤイバ「まずい!!」

マダラ「死ねええええ!!」

マダラがエネルギーを放とうとしたその時、マダラは何かに斬りつ

けられた。

マダラ「ぐああ！？なっ、何だ！？」

マダラの後ろには仮面ライダーシャイバがいた。

シャイバ「楽しめそうだな。」

マダラ「黒いヤイバか、面白い！！」

マダラは専用武器の斧を取り出し、シャイバは黒い双剣・シャドーカッターを構える。

シャイバ「お前らはそいつをやれ！！」

ケン「あっ、ああ！！」

ヤイバ「行くぞ！」

ヤイバは正面から剣でラクロウクを斬りつけ高く飛び上がった、そしてケンは炎の拳でアツパーを繰り出した。

ケン「だらああああ！！」

ラクロウクは殴り上げられた、上空にはヤイバが剣を構えていた。

ヤイバ「だああああ！！」

ヤイバはラクロウクを切り捨て消滅させた。

シャイバ「ふっ！はっ！！」

マダラ「ぐっ！？ぬお！？」

マダラはシャイバの猛攻におされていた、マダラはシャイバを突き飛ばした、それと同時にシャイバは双剣を投げつけたがマダラはそれをかわした。

マダラ「残念だな！！」

しかしシャイバは上手く受け身を取り、マダラに近づき押さえ込む。

シャイバ「いや？計算通りだ。」

マダラ「何！？」

するとマダラは何かに斬りつけられた、それはシャイバが投げつけた剣だった、シャイバの剣はブーメランのように戻ってきたのだ。

マダラ「ぐ．．．覚えていろ！！」

マダラはそう叫び消えた。

シャイバ「逃げたか。」

．．．．．

蒼牙「助けてくれてありがとう。」

裏蒼牙「そんなたいそうな事じゃない。」

蒼牙「ねえ、裏蒼牙じゃなくて名前つけない？」

龍「良いなそれ！」

アイリ「確かに裏なんて響き悪いもんね。」

裏蒼牙「好きにしろ。」

裏蒼牙はそのまま立ち去る、その後ろから

蒼牙「タクヤ！！君はタクヤだ！！」

タクヤ「・・・」

タクヤは無言のまま見えなくなった。

仮面ライダーヤイバ

EP16 もう一人の自分(後書き)

次回、仮面ライダーヤイバ!!

蒼牙「何だここ?」

アイリ「見たことないね?」

???「う、ごめんなさい!」

龍一「君は?」

???「君達は下がって、変身!」

「キラァー!!」

蒼牙、アイリ、龍一「ええええええええ!」

EP17 コラボレーション!!断罪と雷と女戦士!?

EP17 コラボレーション!!断罪と雷と女戦士!?(前書き)

これまでの仮面ライダーヤイバ!!

蒼牙「黒い・・・ヤイバ?」

シャイバ「俺は仮面ライダーシャイバだ。」

マダラ「面白い。」

龍一「裏蒼牙でよいか?」

裏蒼牙「好きにしろ。」

アイリ「あなた、何でそんな事を?」

蒼牙「お前はタクヤだ!!」

タクヤ「・・・」

今回、ヤイバに待ち受けるものとは!?

EP17 コラボレーション!!断罪と雷と女戦士!?

蒼牙の家

蒼牙「やっと暖かくなってきたね。」

アイリ「そうね、安心だね。」

そこに龍一が蒼牙の家に訪れた。

龍一「蒼牙!」

蒼牙「龍一?どうしたの?」

龍一「今日夢見なかったか!?自分が光の中にいて何かが語りかけてくる夢!」

蒼牙「み、見たけど・・・」

すると

アイリ「え!?蒼牙も見たの!」

蒼牙「じゃあ龍一やアイリも!」

その時、頭の中に声が流れた。

「助けてくださいですう!」

アイリ「なっ、何!？」

「僕達の仲間が危ない目にあっている」

「助けに来てメポ!！」

蒼牙「何なんだこの声!？」

龍一「お困りのようだけど!？」

「今からあんさんらをこっちに連れて行くさかい!!--我慢してや!」

すると三人は謎の光に包まれた。

蒼牙、アイリ、龍一「うわああああああ!？」

.....

EP17 コラボレーション!!--断罪と雷と女戦士!?

蒼牙達は気づけば見えない町にいた。

蒼牙「何だ?.....どこ?」

アイリ「見たことないね。」

龍一「まさか.....異世界とか?」

蒼牙「そっ、そんなあ.....」

その時

「???」ちよつとのぞみ!! 買いすぎだよ!!」

「???」え? 大丈夫だよりんちゃん、今日は久しぶりに豪華にしようよ。」

りんという名の茶色の髪の子がのぞみという名の桃色の髪の子に怒鳴っていた。

そこにツインテールの同じく桃色の髪の子に青色の髪の子が現れた。

「???」 たっ、たくさん買いましたね。」

「???」 いやいやつぼみ、買いすぎだから。」

「???」 そっ、そうですね、えりか。」

のぞみ「ぶ、みんなで私をいじめて・・・うわああ!？」

のぞみという女の子はつまずき転んでしまい転がった食べ物がゴロゴロと転がってしまった。

のぞみ「あゝ!?!? だれか?!!」

蒼牙達はその食べ物を持ち集めてのぞみに手渡す。

のぞみ「ありがとうございます。」

りん「全く他人にまで迷惑かけて!!」

蒼牙「気にしないで。」

アイリ「困ってる時はお互い様でしょ?」

龍一「そゆこと。」

つぼみ「ありがとうございます。」

えりか「ていうかあなた!!」

アイリ「え!?!」

えりかはアイリに指をさす。

えりか「何でそんなに背がたかいの!?!」

アイリ「そつ、そんな事言われても・・・」

その時、ある男が現れた。

????「いたいた、遅いぞ4人共、あつ何か迷惑かけた?」

蒼牙「え?いや?」

のぞみ「かけちゃったの本当にごめんなさい!!」

????「全く、すまないな、僕は夢原信者、こいつらの保護者だ。」

アイリ「えっ？ちよつと!？」

のぞみ「行くよ、みんな!！」

夢原はベルトを装着、のぞみとりんはコンパクトを取り出しつぼみとえりかには不思議な妖精が現れ種と香水容器のような物を取り出した。

蒼牙「え!？ちよつと!？」

夢原「君達は下がって!！・・・変身!！」

「キラー!！」

夢原はベルトにメモリを差し込んだ。

「プリキュア・メタモルフォーゼ!！」

「プリキュア・オープンマイハート!！」

すると5人はたちまち姿を変えた。

蒼牙「ええええええええ!？」

夢原は断罪者、仮面ライダーキラーに変身、のぞみ達は伝説の戦士プリキュアに変身した。

キラー「さあ、裁きを受けるがいい。」

ドリーム「大いなる希望の力、キュアドリーム!！」

ルージュ「情熱の赤い炎！！キュアルージュ！！」

ブロッサム「大地に咲く一輪の花！！キュアブロッサム！！」

マリン「海風に揺れる一輪の花！！キュアマリン！！」

蒼牙達はポカーンと口を開けるしかなかった。

鳴滝「ははは！！行け、スナツキーよ！！」

鳴滝はスナツキーを呼び出した。

「キラー！！マキシマムドライブ！！」

ドオオオン！！

鳴滝「ええ！？呼び出したばかりだよ！？」

キラー「先手必勝！！」

鳴滝「おのれ、行けドラス！！」

鳴滝はネオ生命体ドラスを呼び出したが

ドリーム「プリキュア・シューティングスター！！」

ルージュ「プリキュア・ファイヤーストライク！！」

ブロッサム、マリン「プリキュア・フローラルパワーフォルテッシ

モ！」

ドオオオン！！

鳴滝「がああ！？ドラスまでもが！？」

蒼牙「強いなあ。」

鳴滝「おのれただではすまさん！！行け！！ボルシャック・ドラゴン！！ギロン！！ジエン・モーラン！！」

キラー「ええ！？デュエマにガメラにモンハン！？」

龍一「ボルシャック・ドラゴン懐かしいなあ。」

アイリ「ジエン・モーランは強いわよ、3rdで何度も苦しめられたわ。」

蒼牙「持つてるんだ、ギロンか厄介だな。」

鳴滝もう何でもありだな、そんな事はさておき猛攻撃を受ける夢原一同。

「うわあああああ！？」

「きゃあああああ！？」

アイリ「かなりピンチよ！？」

蒼牙「このままじゃ危ない、龍一！！」

龍一「ああ!!」

キラー「反則級に強いな。」

鳴滝「ははは!!おとなしく私に……ん?何だお前は。」

蒼牙と龍一は前に出る。

ドリーム「危ないから下がって!!」

蒼牙「そうはいかないよ。」

龍一「鳴滝!!忘れたとは言わさん!!」

鳴滝「……あっ!?!お前はまさか!?!」

龍一「そのまさかだ!!」

龍一はリングを取り出す、蒼牙はベルトを装着する。

蒼牙・龍一「変身!!」

キラー「え!?!」

ルージュ「今、何て……」

ブロッサム「変……」

マリリン「身……」

夢原一同「変身!?!」

蒼牙と龍一は仮面ライダーヤイバと仮面ライダーケンに変身した。

鳴滝「なああああにいいいい!?!」

ヤイバ「今日がお前の命日だ!?!」

ケン「俺の熱は冷めないぜええ!?!」

ヤイバはジエン・モーランを

ケンはギロンを相手にする。

しかしボルシヤック・ドラゴンは誰が?そう、奴だ。

「プリキュア!?!ライトニング・トランス!?!」

キラー「あつ!?!エルス!?!」

そう、キュアエルスだ!?!

エルス「こいつは私がやるわ!?!」

ジエン・モーランはヤイバに向かって突進してきた。

ヤイバ「危なっ!?!くそおとなしくしろ!?!」

ヤイバは剣をジエン・モーランの頭に突き刺す。

ジエン・モーラン「ウオオオン!?!」

ヤイバ「くそおお!!」

ヤイバは剣から電力を流した、すると痺れたのかジエン・モーランは動けなくなった。

ヤイバ「よおおおし!! 夢原さん、行きましょう!!」

キラ「え、ああ!!」

ヤイバはヤイバスティックを倒し足に雷をためる。

キラはメモリをスロットに入れる。

「キラ!! マキシマムドライブ!!」

キラ「キラ・ヘルグランド!!」

キラはジエン・モーランを蹴り上げ回し蹴りを叩き込む、そしてヤイバは上空から

ヤイバ「ライダーキック!!」

ジエン・モーランの頭にキックを叩き込みジエン・モーランを消滅させた。

.....

ケン「だりゃあ!! ぬお、固い!?!」

ギロンの頭についている巨大なナイフはダイヤモンドをも簡単に斬

っってしまうのだ。ギロンはナイフから手裏剣を飛ばす。

ケン「うわ！？やめろ！？危ない！？」

ケンは手裏剣をかわすがブーメランのように戻ってきた。

ケン「手裏剣が出たところに戻るのか、よし！！」

ケンは手裏剣に捕まりぐるぐる回りながらギロンに向かっていく。

ケン「ぬおおおおおおお！！」

ケンは手を離し回転しながらバツクルのリングを回し足に炎をためる。

ケン「スクリュー！！ファイヤーストライク！！」

真横から回転蹴りを叩き込み頭のナイフを砕きギロンを消滅させた。

.....

エルス「はああ！！」

エルスはボルシャック・ドラゴンと相手をする、もちろん他のドリーム、ルージユ、プロツサム、マリンも続く。

鳴滝「おのれええ！！火文明のカードを4枚墓地に捨ててパワーアップを・・・あれ、ない。」

だれかが鳴滝の肩を叩く。

鳴滝「ん？」

アイリだ。

アイリ「ふんぬー!!」

鳴滝「ぎゃひ!?」

アイリ「引っ込んでなさい!!」

.....

ボルシャック・ドラゴンなかなかタフだ、そう簡単には死なない。

ドリーム「はあはあ、なかなか倒せないね。」

ルージュ「もしかしたら私の力が火だからかも、私は相手を引きつけるからあなた達は一斉に必殺技を叩き込んで。」

ブロッサム「はい!!」

マリン「やるっしゅー!!」

エルス「行くわよ!!」

ルージュはボルシャック・ドラゴンを飛び越え引きつける。

ドリーム「プリキュア!!シューティングスター!!」

ブロッサム・マリィン「プリキュア！！フローラルパワーフォルテッ
シモ！」

エルス「プリキュア！！ライジングクラッシュ！！」

ボルシャック・ドラゴン「グアアアアアア！！」

ボルシャック・ドラゴンは消滅、キラーは鳴滝にアッパーを叩き込
み殴りとばした。

鳴滝「おのれディケイドオオオオオオオオ！！」

キラーン

ケン「鳴滝が飛んでったのあそこだよな。」

ヤイバ「そうだけど？」

ケン「はああ！！」

ケンはバツクルのリングを最大限に回し拳に凄まじい力をたくわえ
る。

ケン「こいつも持ってけ！！ドラゴン・ストリィイム！」

ケンが拳を突き出すと炎のドラゴンが鳴滝に向かって飛んでいった。

.....

ひよんな事から出会った一同、夢原は蒼牙をプリキュアハウスに連

れて行くという。

龍一「なるほど、伝説の戦士プリキュアか。」

夢原「年々数も増えてくるから大助かりだ。」

ドリーム「でも、蒼牙さん達も仮面ライダーだったんだね!!びっくりしたよ!!」

ブロッサム「私もびっくりです!!」

アイリ「まあ、その話は後で。」

プリキュアハウス

????「おかえりなさい、その人達は誰ですか？」

????「何々?誰々?」

.....

夢原「てなわけだ。」

????「君達も仮面ライダーか、自己紹介しなきゃね、僕は霧彦、仮面ライダーナスカだよ。」

「私、美墨なぎさ!!キュアブラック!!」

「雪城ほのか、キュアホワイトです。」

「九条ひかりといいます、シャイニールミナスです。」

「私は日向咲！キュアブルームです！！！」

「美翔舞、キュアイーグレットです。」

「私は夢原のぞみ！！キュアドリーム！！！」

「夏木りんでキュアルージュよ。」

「春日野つらら、キュアレモネードです！！歌います！！！」

「大丈夫ようららさん、秋元こまち、キュアミントです。」

以下省略

アクア「ええ！？」

ピーチ「何で省略なの！？」

だって長いじゃん、俺ナレーションだからいつ好きな時に省略使えるからね。

エルス「いやよ！？光明寺御子！！キュアエルス！！！」

はいはい、そして自己紹介を終えた時プリキュアの妖精が現れた。

ココ「ココ？来てくれたココー！！！」

タルト「成功や！！あんさんらよく来てくれましたわ！！！」

龍一「ああ!?!この声!?!」

アイリ「妖・・・精?」

蒼牙「あゝ、君達が俺達を呼んだのか。」

メッブル「そうメポ!!ナレーション!!」

自己紹介中・・・

龍一「なるほど、メッブルにタルトにシプレにコフレか。」

アイリ「で、何で私達を呼んだの?」

するとナッツが

ナッツ「実はスーパーネガシヨッカーが新たな戦力を補充したから
少し手伝ってほしいという理由ナツ。」

アイリ「ふん、どうするの?」

蒼牙「もちろん手伝うよ。」

龍一「俺も鳴滝に改造された恨みをもう少し晴らしたいからな。」

夢原「改造?」

蒼牙達は自分達が改造人間である事を話した。

サンシャイン「そんな、ひどい・・・」

夢原「悪い事聞いたな。」

蒼牙「気にしないで、俺は俺として生きていくから。」

龍一「だな。」

テンペスト「私達応援する！！」

すると

ブレイズ「ねえ作者さん、ゲスト用の部屋なんてあったっけ？」

夢原「大丈夫大丈夫、霧彦のベッドはリビングのソファに移すから。」

「

霧彦（軽くひどい事言ったな。）

というわけで蒼牙達は居候する事になった。

蒼牙「そういえばプロトは大丈夫かな。」

フラッピ「安心するラピ、時間を止めておいたラピ。」

龍一「おお、安心安心。」

アイリ（何でもありなのね。）

.....

鳴滝「何だあの炎は・・・ギャアアアアアアア!?」

.....

夜中、一同が寝静まった頃アイリはホワイトの研究室を訪ねた、ホワイトは研究資料をまとめるため起きていた。

ホワイト「アイリさん、こんな時間にどうしたんですか？」

アイリ「実は頼みたい事が・・・」

K A M E N
R I D E R
Y A I B A

n e x t e p i s o d e
...

EP17 コラボレーション!!断罪と雷と女戦士!!?(後書き)

次回、仮面ライダーヤイバ!!

夢原「ついに奴を呼び出したか。」

龍一「落ちるところまで落ちやがって!!」

アイリ「私にまかせて!!ホワイト!!」

ホワイト「はい!!」

蒼牙「はっ!?ええええ!!」

鳴滝「何いいいい!!」

アイリ「あなたの思い通りにはさせない!!」

EP18 アイリが変身!!?コラボで大激闘!!

EP18 アイリが変身！？コラボで大激闘！！（前書き）

仮面ライダーヤイバ！！前回のあらすじ

蒼牙達は見知らぬ世界にやって来た。

蒼牙「どこだここ？」

アイリ「見ない所ね。」

その世界には仮面ライダー、伝説の戦士プリキュアがいた！

キラ「さあ、裁きを受けるがいい！！」

ドリーム「行くよ！！」

EP18 アイリが変身！？コラボで大激闘！！

蒼牙達は助っ人として夢原信者の世界に来ていた。

ヤイバ「ライダーキック！！」

エルス「プリキュア！！ライジングクラッシュ！！」

ケン「ライダーグレンパンチ！！」

「キラー！！マキシマムドライブ！！」

キラー「キラーヘルグランド！！」

ドリーム「プリキュア！！シューティングスター！！」

怪人「ぐあアアアアア！！」

蒼牙達がこの世界に来て3日目、鳴滝の猛攻もゆるんできた、そこに不満を持つ人物が・・・アイリだ。

プリキュアハウス

アイリ「ホワイト、どう？」

ホワイト「形は出来ました、あと1日あれば能力を組み込みます。」

.....

パイン「龍一さん、アイリさん最近可笑しくないですか？」

龍一「確かに変な行動をとるような・・・」

すると

夢原「あゝ、良いね疲れがとれるね。」

蒼牙「役に立って何よりです。」

レモネード「次お願いしますー!!」

蒼牙は静電気を抑制する機械でマッサージをしていた。

ココ「ゆっ、有効活用してるココ。」

龍一「なんかな。」

その時

「スーパーネガショッカー出現!!!ただちにに出撃せよ!!!」

夢原「おっ!?アナウンス。」

ブルーム「行くわよ!!!」

テンペスト「ええ!!!」

.....

その頃

ホワイト「・・・出来たわ!!」

アイリ「本当に!?!」

ホワイト「アイリさん、早速!!」

・・・

鳴滝「プリプリ〜 プリキュ〜ア〜」

夢原「オーズのラトラーターみたいに歌うな!! 変身!!」

蒼牙「変身!!」

龍一「決着つけてやる!! 変身!!」

霧彦「僕をわすれるな、変身!!」

「change Y A I B A!!」

「キラー!!」

「ナスカ!!」

4人は仮面ライダーに変身した、プリキュアはドリーム、ブルーム、エルス、ピーチ、テンペストだ。

ピーチ「今日は何を連れてきたの?」

ケン「どんな奴もぶっ飛ばす!!」

鳴滝「ははははは!!これだアア!!」

灰色のオーロラから現れたのは・・・

???「お前も俺の事笑ってんだろっ?」

???「行くよ、兄貴。」

???「イライラするんだよお。」

???「ザヨゴオオオ!!」

仮面ライダーキックホッパー、パンチホッパー、王蛇、ダディヤナザンだ。

キラ「おいおい!?!良心ライダーいるぞ!?!」

ナスカ「しかもそいつ以外ネガティブキャラだああ!?!」

テンペスト「とっ、とりあえず行くわよ!?!」

ヤイバ「おっ、おう!?!」

それぞれ立ち向かう。

「clock up!?!」

キックホッパー、パンチホッパーはクロックアップで高速移動を始める、ヤイバはダッシュモードで追いつく。

ヤイバ「おりゃー!!」

キックホッパー「ふっ!!」

パンチホッパー「はっ!!」

ヤイバ「うわあ!?!」

王蛇「さあ、祭りを始めようかあ。」

ダディヤナザン「ザヨゴオオオ!!」

キラー「キラーヘルグランド!!」

ダディヤナザン「ザヨゴオオオ!!?」

ダディヤナザンは即敗退、しかしネガティブライダーは強く苦戦する。

キラー「くっ!!」

ナスカ「うわあ!?!」

ピーチ「きゃあ!?!」

ドリーム「わあ!?!」

エルス「この！！プリキュア！！ライジングクラッシュ！！」

テンペスト「プリキュア！！テンペストブレイク！！」

エルスとテンペストは必殺技を繰り出すが

「コンファイン・ベント」

エルス「はああ・・・ってあれ！？」

テンペスト「技が！？」

キラ「コンファイン・ベント！？それは仮面ライダーガイ専用のカードのはず！？」

鳴滝「私が渡した！！」

ナスカ「余計な事を！！」

なんと王蛇はガイ専用のカード、コンファインベントで二人の必殺技を打ち消したのだ。

テンペスト「きゃあ！？」

エルス「テンペスト！？ああ！？」

王蛇「まだまだ、まだイライラが収まらない！！」

ケン「んなるお！！」

ケンは王蛇を殴りつけた、2発目を与えようとしたがパンチホッパ
ーの高速攻撃に邪魔をされた。
そしてヤイバもキックホッパーに蹴り飛ばされた。

ケン「ぐあ!?!」

ヤイバ「なああ!?!」

鳴滝「終わりだ、ついに……ついにプリキュアハーレムを!?!」

しかしその時、赤い光が現れた、アカルンで移動したパッション、
ホワイト、アイリだ。

ヤイバ「アイリ!?!」

ナスカ「何をする気だ!?!にげる!?!」

ピーチ「危ない!?!」

しかしホワイトはアイリにある物を渡した、携帯だ。

パッション「本当にできるの?」

ホワイト「大丈夫!?!」

アイリ「行くわよ!?!」

ヤイバ「アイリ……?」

アイリは携帯を開き一枚のカードをスキャンさせた。

アイリ「プリキュア！！スキヤニング・チェンジ！！」

すると携帯から高い女の声が響いた。

「キュアライド！！デイリー！！」

するとアイリはマゼンタ色の光に包まれた。

鳴滝「なっ、何だあああああ！！？」

キラ「馬鹿な！？」

ヤイバ「こんな事が！？」

光がおさまるとアイリは白、黒、そして胸に青い宝石にマゼンタ色のリボン、白とマゼンタのチェック柄のスカート、髪はマゼンタ色で花の形の髪止めでツインテールになりキラキラと輝いていた。

アイリ「全ての光の集大成！！キュアデイリー！！」

鳴滝「プリキュアだとおおおお！！？」

蒼牙達「ええええええええええ！！？」

夢原「ホワイト！！まさか！？」

ホワイト「はい、アイリさんも戦いとの事で作りました。」

パッション「凄い輝き。」

ケン「全ての集大成・・・」

ピーチ「キュアディリー!!」

鳴滝「ふん!!行け!!」

王蛇がキュアディリーに攻撃を仕掛けるがディリーはそれをかわす。

ディリー「はあ!!」

ディリーは王蛇の懐に鉄拳を与える。

王蛇「ぬっ!?!」

次にキックホッパーとパンチホッパーがクロックアップで移動する、するとディリーは変身後腰につけた携帯を取り出して開き、反対側についているポーチからカードを一枚取り出す。

ディリー「速いならこれよ!!」

ディリーはカードを携帯でスキャンさせる。

「キュアライド!!ローズ!!」

するとディリーはなんとミルキィローズの衣装に変わったのだ。

パッション「ローズに変わった!?!」

キラ「まさかこの能力は!?!」

そう、ホワイトは仮面ライダーディケイドをもとにディリーの変身アイテムを作ったのだ。

ディリーローズは高く飛び上がり白とマゼンタ色の宝石がついた杖を取り出してまたカードをスキャンさせる。

「ファイナルgogoroライド!!!ブブブリザード!!!」

ディリー「はあ!!!」

ディリーローズは杖からミルクィローズブリザードを繰り出した。

パンチホッパー、キックホッパー「ぐああああ!?!」

地獄兄弟は消え去った。

鳴滝「じつ、地獄兄弟が!?!」

ヤイバ「つよい!」

王蛇「この!?!」

「アドベント」

王蛇はアドベントで契約した三体のモンスターを呼び出した。

ディリー「複数なら、これかな?」

ディリーはもとに戻りまたまたカードをスキャンさせる。

「キュアライド！！フラワー！！」

ディリーは次にキュアフラワーの衣装になった。

キラ「キュ、キュアフラワーにまで！？」

「ハートキャッチライド！！フラワーカーニバル！！」

するとディリーの分身が現れそれぞれモンスターを倒し、ディリーはついに王蛇を倒した。

王蛇「くそおおお！！」

鳴滝「わっ、私の戦力が・・・」

ヤイバ「凄い、全部倒した。」

ケン「やべえな。」

ディリー「終わりよ！！」

ディリーは金色のカードをスキャンする。

「ファイナルライド！！ディディディディリー！！」

ディリーの杖にマゼンタ色のエネルギーがたまる。

ディリー「はああああ！！」

鳴滝「まっ、まずい！！」

ディリー「プリキュア!!」

ディリーは瞬間で鳴滝の目の前に移動した。

鳴滝「なっ!?!」

ディリー「ディメンション・シャイニイイグ!!!!!!」

ディリーの杖からマゼンタ色の花がドリル回転をしながら鳴滝に直撃、そのまま空まで押し上げて爆発した。

鳴滝「おのれディリイイイイイイイイイイイ!!!!!!!!!!」

.....

ヤイバ「まさかアイリがプリキュアになるなんて.....」

キラ「予想外だな。」

ホワイト「キュアディリーの誕生です。」

ケン「しかし何でディリーなんだ?」

ドリーム「私も気になる!」

ディリー「蒼牙、私の好きな花は何?」

ヤイバ「え?桜だよな?」

ディリー「そう、桜は英語でcherry、能力は仮面ライダー
イクエイドをもとにして作ったから。」

ピーチ・ブルーム・ドリーム「?」

エルス「ああ、イクエイドとチェリーをかけてディリーね。」

ディリー「正解!」

テンペスト「それにしても疲れたね。」

キラ「よし、今日はもう帰ろう。」

ナスカ「そうだね。」

そして翌日

タルト「あんさんらのおかげで落ち着いたわ、もう安心できるわ。」

霧彦「寂しくなるけどお別れだね。」

ドリーム「元気だね。」

エルス「また会える日を待ってるわ。」

アイリ「ホワイト、これ。」

アイリはホワイトにキュアディリーの変身アイテムを返した。

ホワイト「良いんですか？これがあれば・・・」

アイリ「良いの、私には蒼牙達を見守る使命があるから。」

ホワイト「わかりました。」

ココ「準備は良いココ？」

蒼牙「一緒に戦えて良かった。」

夢原「またな。」

2人は握手をかわす、この時は静電気は起きなかった、そして蒼牙達は妖精の力でもとの世界に帰った。

仮面ライダーヤイバ

EP18 アイリが変身！？コラボで大激闘！！（後書き）

次回、仮面ライダーヤイバ！！

蒼牙「榊原さんがプロトに！？」

アイリ「アジトへは連れて行けない。」

タクヤ「気をつける、お前は真相を知る事になる。」

蒼牙「そんな事って・・・」

EP19 誘拐された榊原

夢原さん、コラボレーションありがとうございます！！

アイリ「プリキュアになる夢が叶って良かったわ。」

龍「夢だったのか。」

蒼牙「仮面ライダーキラー！！またどこかで会おう！！」

EP19 誘拐された榊原（前書き）

これまでの仮面ライダーヤイバ！！

蒼牙達は夢原信者の世界に行き帰ってきた！！
果たして今回ヤイバに待ち受けるものは！？

EP19 誘拐された榊原

ある夜

榊原は夜道をパトロールしていた。

榊原「・・・異常なしと、さあてラーメンでも食ってあがるかあ。」

すると榊原は後ろから何かに殴られた。

榊原「うっ!?!」

榊原は気を失い倒れてしまった、犯人はマダラだった。

マダラ「さあて、実験体になってもらっぜ?」

・・・

翌日

アイリ「あゝ、良く寝た・・・って蒼牙!?!」

蒼牙「羊が14526匹・・・羊が14527匹・・・羊が、ああ
アイリおはよう。」

アイリ「おはようじゃないわよ!?!どうしたの!?!」

蒼牙「昨日昼寝をしたからかな?眠れないんだ。」

蒼牙の目にはどす黒いくまが出来ていた。

アイリ「大丈夫なの？」

蒼牙「わかんない・・・眠れない、アイリ子守歌を。」

アイリ「子供か！？もうしょうがないわね、ねむれ。」

蒼牙「……………」

アイリ「早いお眠りだこと（寝てる蒼牙もいけてるわね。）

するとそこに龍一が来た。

龍一「おーす、ってあれ？いないかあ。」

アイリ「あら龍一、どうしたの？」

龍一「いやさあ、榊原見なかった？」

龍一は榊原を探しているようだ。

アイリ「榊原さん？」

龍一「うん、昨日から行方知れずでさあ。」

アイリ「心配ねえ。」

すると蒼牙は目を覚ました。

蒼牙「あゝ、よく寝た。」

アイリ「早くない!？」

蒼牙の目のくまはすっかり消えていた。

.....

龍一「榊原が何も言わずに消えるのは可笑しい。」

蒼牙「一体どこ行ったんだらうね？」

アイリ「無事なら良いんだけど・・・」

三人は外を歩いていた。

龍一「・・・？」

龍一は何かに気づき足を止めた。

蒼牙「龍一？」

アイリ「どうしたの？」

龍一「気をつける・・・何か来る。」

確かにガシャンガシャンという鋼鉄が地面に落ちる音が聞こえる、
恐る恐る後ろを振り向くと鋼鉄を鎧を身にまとった謎の怪人が斧を
持ち近づいてきていた。

アイリ「プロトね、見た事ない奴ね。」

龍「相手にとって不足はないな。」

蒼牙「行くよ、変身！！」

「change YAIIBA!!」

2人は変身し謎の斧男に攻撃を仕掛けるが斧を振り回されなかなか近づけない。

ヤイバ「うわ！？危ない！？」

ケン「これじゃあ近づけない、こうなれば一か八か！！」

ケンは高く飛び上がり拳から炎の龍を放った、しかしその龍は斧で真っ二つにされた。

ケン「駄目か！！」

「change dash!!」

次にヤイバはダッシュモードで高速移動し斧男の懐にはいり剣で斬りつけるが鎧はかなり固いようだからすり傷一つ付いていなかった。

ヤイバ「固い！うわああ！？」

ヤイバは斧を間一髪かわすが風圧でとばされた。

ケン「何だ？まるで俺達の行動をわかってるようだ。」

ヤイバ「まずい！！」

斧男は斧を振り上げる、すると黒い稲妻が斧男の手を貫き斧を落と
した、目の前に仮面ライダーシャイバが現れた。

ヤイバ「タクヤ！？」

シャイバ「むやみに強い攻撃しないほうが良いぞ、なぜなら・・・」

シャイバは剣を斧男の顔に投げつけ顔の装甲を砕いた、すると目の
赤い見た事のある顔が見えた。

アイリ「あつ、あれって！？」

ヤイバ「榊原さん！？」

シャイバ「そうだ、榊原はプロトに操られているんだ。」

ケン「キタネエまねを！！」

シャイバ「一旦ひくぞ。」

シャイバは三人を誘導し榊原から離れる。

.....

蒼牙「助かったよタクヤ。」

タクヤ「気にすんな、それよりアイリ、あの事話したか？」

アイリ「・・・まだよ。」

龍一「何の話だ？」

タクヤ「蒼牙、落ち着いて聞いてくれ・・・お前は5年前に女死なせてるだろ？」

蒼牙「紗耶香か・・・それがどうしたの？」

タクヤ「生きてる。」

蒼牙「は？」

蒼牙は啞然とした。

龍一「紗耶香が・・・生きてる？」

蒼牙「何の冗談だよ。」

タクヤ「冗談じゃない、彼女は生きてる。」

蒼牙は嬉しいような驚いたような感情だった。

蒼牙「じ、じゃあ紗耶香はどこに!？」

するとアイリが

アイリ「プロト本部よ。」

龍一「なに!?!」

蒼牙「何で!?!」

タクヤ「アイリには話したが俺はお前が改造された直後体を借りて2、3日プロトで働いていた。」

蒼牙「俺がプロトに?」

龍一「まあ正しくはタクヤがだけどな。」

アイリ「プロト首領復活にはヤイバの力の他に、その体となる器が必要な。」

龍一「じゃあ紗耶香は・・・器に?」

タクヤ「ああ。」

蒼牙「そんな事って・・・」

しかしタクヤは続ける。

タクヤ「調べによると、プロトはヤイバの力無しで首領復活の方法を見つけ出したらしい。」

アイリ「なっ、なにそれ!?!」

龍一「一体どうやって・・・」

タクヤ「それはわからない。」

すると蒼牙は

蒼牙「関係ないよ。」

アイリ「え？」

蒼牙「話は簡単だよ、紗耶香が首領の体になる前に助け出す、でもその前に榊原さんだ。」

タクヤ「お前らしいや。」

タクヤは微かに微笑んだ。

.....

真実を知った蒼牙、果たしてどうなるか？

K A M E N R I D E R Y A I B A

n e x t e p i s o d e . . .

続きは少し後になります、その間に超クロスオーバー物語を少し書きます。

EP20 ケンの新たなる力(前書き)

仮面ライダーヤイバ!!前回のあらすじ

榊原がプロトに操られた!!

蒼牙「榊原さんが!?!」

タクヤ「ああ、操られている。」

そして首領の器が紗耶香だと知る!!

蒼牙「そんな事って・・・」

EP20 ケンの新たなる力

榊原はプロトに操られ蒼牙達を探していた。

.....

蒼牙「まずは榊原さんをどう助けるかだな。」

タクヤ「おそらく鎧のどこかに洗脳の中核があるはずだ。」

アイリ「でもどこに？」

龍「わかんないなら鎧を全部砕くまでだ。」

4人は榊原を解放するために作戦をたてていた。

.....

EP20 ケンの新たなる力

プロト本部

マダラ「首領.....もう少しです、もう少しで.....復活の時です。」

ゴポゴポと泡立つ液体が入ったカプセルの中には紗耶香の体が入っていた、体にはチューブがさされ謎のエネルギーが送られていた。

.....

蒼牙「いた、榊原さんだ!!」

操られている榊原は鎧をみにまとい斧を引きずりながら蒼牙達を探していた。

タクヤ「協力してやる、まずは先制攻撃で洗脳の中枢を探すぞ。」

龍一「お前が仕切るな!!」

三人は変身し、榊原に不意打ちを与える。

榊原「!?!」

しかし鎧は傷一つつかない。

シャイバ「やはりさっきはまぐれ当たりか。」

ヤイバ「固すぎるよ!!」

ケン「んなるお。」

榊原「コロス。」

榊原は斧を振り下ろす、三人はなんとかかわすが榊原はアイリに迎えて斧を投げつけた。

アイリ（えっ!?!）

シャイバ「何!?!」

ヤイバ「アイリ!!」

「change dash!!」

ヤイバはダツシュモードでアイリの前に立ち剣で斧を防ぐが剣は簡単にへし折られ、ヤイバに直撃した。

ヤイバ「うああああああああああああああ!!」

シャイバ「蒼牙!?!」

ケン「蒼牙!?!」

アイリ「蒼牙!!」

ヤイバは変身が解け蒼牙の姿に戻り、倒れた、ヤイバの装甲で何とか一命をとりとめたものの蒼牙には立ち上がる力が無かった。

アイリ「蒼牙!! 蒼牙!!」

シャイバ「あいつ・・・」

ケン「てめえええええ!!」

ケンはベルトのリングを回し拳に凄まじい炎のエネルギーを放つ。

シャイバ「おい!?! 殺す気か!?!」

ケン「鎧ぶつ壊すだけだ・・・おるああああ!!」

辺りに凄まじい衝撃波が放たれた。

シャイバ「ぬおっ!?!」

アイリ「きゃあ!?!」

.....

アイリ「.....ん?」

シャイバ「.....くっ.....?」

衝撃波により2人は気絶してしまっただけ、そして光景をみて絶句した。

シャイバ「なっ!?!」

アイリ「り.....龍.....」

ケンは血をたらしながら榊原に片手で首を絞め上げられていた。

榊原「クロス.....」

榊原の鎧には傷一つついていなかった。

ケン「かつ.....」

シャイバ「もう止める!!!榊原!!!」

榊原「スベテハシユリヨウフツカツノタメ。」

アイリ「榊原さん!!!龍一が死んじゃうよ!!!」

榊原「スベテハシユリヨウフツカツノタメ。」

ケンは投げ飛ばされた、榊原は2人に近づく。

シャイバ「ちくしょう・・・」

アイリ「榊原さん・・・」

その時

「やめ・・・で、榊原・・・さん・・・」

榊原「!!!」

シャイバ「蒼牙?」

アイリ「蒼牙!!!」

蒼牙は目を覚ました、息を切らしながら榊原を説得する。

蒼牙「榊原さん・・・あなたは・・・僕に大切な・・・事を・・・
教えてくれた・・・だから僕はヤイバとして・・・戦える。」

榊原「ナン・・・そ・・・ナンノ・・・うが・・・コト・・・」

榊原の喋り方が変わり始めた。

シャイバ「洗脳が・・・解けはじめた？」

アイリ「蒼牙・・・あなた・・・」

蒼牙（頼んだよ、龍一。）

ケン「よくやった蒼牙・・・榊原は・・・任せな。」

しかしうまく立ち上がる事が出来ないケン。

シャイバ「ん？」

シャイバは違和感を感じ空を見上げた。

ケン「榊原・・・いい加減目え覚ましなあ。」

榊原「り・・・ダメ・・・いち・・・レ。」

(.....)

シャイバ「まさか・・・」

シャイバには何かを感じていた。

シャイバ「龍一！！リングを空に向かって投げろ！！」

ケン「・・・はあ？何言ってる・・・」

シャイバ「早く！！」

ケンは不満を持ちながら仕方なくベルトのリングを外す。

ケン「こうか!!」

リングを投げた、すると遙か彼方から黄色と赤の龍がリングに向かって飛んできた。

アイリ「ええ!?!」

ケン「何だ!?!」

シャイバ「よし!!」

その龍はリングに宿り形は龍の絵が掘られたメダルに変わりケンの手に渡る。

ケン「これは・・・」

シャイバ「榊原を解放できるのはお前だけだ!!」

ケンは決心しメダルをベルトにつけ直す。

ケンの姿はまるで龍を思わせる姿になった、これが仮面ライダーケン・ドラゴニカフォームだ。

ケン「すげえ、力が満ち溢れる。」

すると榊原は斧を振り下ろしケンを襲う、ケンは拳を突き出す、なんと斧は砕け散った。

榊原「そうか・・・すまなかった。」

龍一「気にすんなよ。」

アイリ「みんな無事だったから。」

・・・

その頃プロト本部では

マダラ「はははー!! ついに、ついに首領復活だー!!」

仮面ライダーヤイバ

EP20 ケンの新たなる力（後書き）

次回、仮面ライダーヤイバ！！

タクヤ「準備は出来てるか？」

蒼牙「当然、準備万端。」

アイリ「ついに行くのね。」

龍「行くぜ。」

EP21 突入！！プロト本部

EP21 突入！！プロト本部（前書き）

これまでの仮面ライダーヤイバ！！

蒼牙「榊原さん！！」

龍一「まじか！！」

タクヤ「奴は洗脳されている。」

ケン「目え覚ましなあ。」

果たして今回ヤイバを待ち受けるものは！？

EP21 突入！！プロト本部

プロト本部

マダラ「あと少し、後は奴を使えば首領の完全復活だ。」

・・・

EP21 突入！！プロト本部

蒼牙の家

蒼牙は納豆ご飯を口に含みながら話していた。

蒼牙「え！？プロトフォンブに突入！？」

お茶漬けを食べるアイリ。

アイリ「ズズズ・・・ええ、いくら幹部を倒したとはいえ元を叩かないとダメだと思うの。」

ラーメンをすする昨夜泊まりに来たタクヤ。

タクヤ「ズゾゾ・・・確かにな、それが一番手っ取り早いな。」

豪華にもうな重を食べる昨夜泊まりに来た龍一。

龍一「モグモグ・・・でも場所わかるのか？」

全ての料理に金を払ってくれたフライドチキンを食べる榊原。

榊原「ガツガツ・・・そうだ、アイリは元はプロトの一員だったもんな。」

アイリ「ええ・・・！？ゴホゴホ！お米が器官に！？」

蒼牙「大丈夫！？」

アイリの背中をさする蒼牙。

龍一「アイリ、プロト本部はどこにあるんだ？」

アイリ「案内するわ、でも準備は万全にね、かなり危険だから。」

・・・

アイリ「準備は良いの？」

蒼牙「準備完了！！！」

タクヤ「いつでもいける。」

龍一「榊原さんは？」

榊原「俺は戦えないからな、ここで見送る・・・良いか？絶対に生きて帰ってこい。」

蒼牙「わかってますよ。」

タクヤ「俺たちが死ぬと思うか？」

龍一「無傷で帰ってくるぜ。」

榊原「なら、安心だ。」

アイリ「行きましょう。」

アイリは蒼牙と2人乗りで4人はバイクを走らせる。

.....

数時間後

プロト本部では騒ぎが起こっていた。

マダラ「一体どうした!？」

怪人「マダラ様!! ヤイバがこちらに向かってきます!!」

マダラ「何!？」

マダラは本部にある画面で外を映し出した、そこにはバイクに乗る4人が映った。

マダラ「ちょうど良い、全員始末してもってこい!!!」

.....

バイクを走らせる4人を怪人達が囲む、蒼牙達はバイクを止める。

蒼牙「行くぜ。」

龍「痛い目見せてやる。」

タクヤ「雑魚はどけ。」

「!!!変身!!!」

アイリは後退し、三人は仮面ライダーに変身し怪人達に立ち向かう。

ヤイバ「はっ!!!やあ!!!」

ケン「どけ!!!おるあ!!!」

シャイバ「ふっ!!!」

次々と怪人を倒していき着々と本部に近づく。

アイリ「あそこが入り口よ!!!」

ヤイバ「行くぞ!!!」

.....

怪人「マダラ様!!!本部にヤイバ達が侵入しました!!!」

マダラ「ほっておけ、どっちにしろここに来る。」

.....

ヤイバ達はアイリの案内でアイリの研究室で休息していた。

ヤイバ「はあはあ……」

ケン「こりゃ……参るぞ。」

シャイバ「くっ……きついな。」

アイリ「ここなら大丈夫、誰も入ってこないから、休んだ方がいいわ。」

ふとヤイバは机は上にある写真を見た。

ヤイバ「アイリの家族？」

アイリ「ええ、でも父も母も首領の器にされて失敗して死んだわ。」

ケン「ひでえな、何でアイリの両親を？」

アイリ「私の両親はプロトの一員だったんだけど……組織を裏切った、その代償なの。」

シャイバ「なるほどな……なら早いとこ止めないと、そんな思い誰にもさせたくないんだろ？蒼牙。」

ヤイバ「当然、行こう。」

ヤイバ達は研究室を出てここからは無駄な体力を使わないためにアイリの知っている隠し通路使って進んだ。

.....

その頃外では、もうひとつバイクが止まった。

怪人「ん？」

????「どいて！」

????は怪人をどつきとばした。

????「嫌な感じしたけどやっぱりここだ・・・行かないと・・・
つてああ!？」

????から赤いメダルが落ち転がっていく。

.....

アイリ「ここよ、この扉の向こうが幹部の部屋。」

シャイバ「ついに来たか。」

ケン「必ず止めてみせる。」

ヤイバ「行くぞ!!!」

ヤイバ達は扉を開けて奥に進んでいく。

.....

???「待つて転がってかないでえええ!!またアंकがうるさいからああ!!」

K A M E N
R I D E R
Y A I B A

n e x t
e p i s o d e
...

EP21 突入！！プロト本部（後書き）

次回、仮面ライダーヤイバ！！

ヤイバ「紗耶香！！」

マダラ「貴様の命をよこせ・・・シャイバ！！」

ケン「どういう事だ？」

アイリ「タクヤが・・・そんな！？」

EP22 首領とタクヤ

EP22 首領とタクヤ（前書き）

仮面ライダーヤイバ！！前回のあらすじ

ヤイバ達はいいにプロト本部に突入した！！！！

EP22 首領とタクヤ

ヤイバ達は一齐に扉を開ける、そこには紗耶香が入れられカプセルが置いてあり、マダラがそれを見つめていた。

ヤイバ「紗耶香!!」

ケン「マダラ、追いつめたぜ。」

シャイバ「……」

マダラ「待っていた、こっちに來いシャイバ。」

一同は啞然とした。

アイリ「シャイバを? どういう事?」

マダラ「何だ知らないのか?」

ヤイバ「タクヤ、どういう……」

するとシャイバはいきなりヤイバとケンを斬りつけた。

ヤイバ「なあ!?!」

ケン「てめえ、何しやがる!?!」

アイリ「タクヤ!?! どういう事なの!?!」

ヤイバ達はわけが分からなかった。

シャイバ「悪いな、三人共・・・俺はタクヤでももう1人の蒼牙でもない。」

ケン「ど、どういう事だ!?!」

マダラ「そいつは元々、ヤイバ・・・貴様の体を首領の器に使った時に生まれたのだ。」

ヤイバ「え!?!」

アイリ「まさか・・・タクヤは蒼牙と首領の力が組み合わさって出来たって事!?!」

マダラ「その通り、だがシャイバとして分離していたとは思わなかったがな。」

シャイバ「俺は蒼牙の体と分離した事によって一時的にしかこの姿を保てない・・・直に消えてしまっただよ。」

マダラ「そうだ、元々はヤイバを生け贄に使って首領復活を計画していたが、首領の力とヤイバの力が組み合わさって出来たシャイバこそふさわしいとわかったのだ。」

ヤイバ「まさかタクヤ・・・プロト側につくのか?」

シャイバ「残念だが俺は元々プロト側だ。」

ケン「このゲス野郎!?!」

ケンはシャイバに向かって殴りかかったがひらりとかわされマダラのエネルギー波に吹き飛ばされた。

ケン「ぐああああ!?!」

アイリ「龍一!?!」

ヤイバ「タクヤやめてくれ!?!俺たちは仲間だろ!?!」

シャイバ「仲間?俺は一度もそんな事・・・」

シャイバは剣にエネルギーをためる。

シャイバ「思った事はない!?!」

シャイバの剣からエネルギーが発せられた。

ケン「やべえ!?!」

ヤイバ「アイリ!?!」

ヤイバはアイリをかばいケンと共に吹き飛ばされ壁にぶつかり砕けて外に放り出された。

「うわああああ!?!」

マダラ「ははは、これで首領復活は確定だ。」

しかし

シャイバ「マダラ、奴らはまだ生きている、またここに来るだろう。
・・・その時始末してからで良いだろう?」

マダラ「・・・確かに邪魔は先に消した方が良いな。」

・・・

ヤイバ「う・・・うう・・・」

ケン「大・・・丈夫か?」

アイリ「なん・・・とか・・・」

三人はプロト本部から放り出され振り出しに戻った。

ケン「やっぱり怪しいと思ってたんだ、蒼牙・・・どうするつもり
だ?」

アイリ「タクヤは倒すしか方法は・・・」

しかし

ヤイバ「いや・・・信じたくない・・・」

ケン「だったらどうするつもりだ?」

ヤイバ「・・・タクヤを止める。」

アイリ「言つと思つた。」

三人は再びプロト本部に乗り込もうとしたが4人の者が座っていた。

アイリ「あれは!？」

????「貴様らを通すわけにはいかない。」

????「うふふ、絶望の音が楽しみね。」

????「てか早いとこやっっちゃおうぜ。」

????「そうだな・・・」

それぞれ赤、黄、青、緑のエネルギーに包まれ怪人の姿に変わった。

ヤイバ「なっ、何だ!？」

アイリ「プロト四大悪魔、灼熱のヒートロン、稲妻のライトン、暴風のウイジャア、津波のウォルター・・・これじゃあ進めない。」

ケン「はあ?やるしかねえだろ!！」

ケンはウォルターを何発も殴りつける、しかし後ずさりすらしない。

ウォルター「こんなものか!？」

ウォルターは大量の水を放ちケンを苦しめる。

ケン「くっ!?!うう・・・」

ライトン「さつさと死んじやいなさいよ!！」

ライトンは水に電気を加えた。

ケン「ぐああああ!?!」

ケンは吹き飛ばされ変身が解けた。

アイリ「龍一!！」

ヤイバ「まずい、うおおおお!!!」

ヤイバは剣を振り回すがひらりといとも簡単にかわされてしまい攻撃をうける。

ウイジャア「ほらほら。」

ヒートロン「それが貴様の限界か?」

ヤイバ「くっ!?!ぐあ!?!」

ヤイバもついには変身が解けてしまった。

アイリ「蒼牙!!そんな……」

蒼牙「くっ……そんな……」

龍一「このままじゃ……」

じりじりと四大悪魔は近づいてくる、すると遠くから何か走る音が聞こえる。

ヒートロン「ん？」

ライトン「なにかしらね？」

蒼牙「？」

龍一「あれは……」

アイリ「な……に？」

何かがマフラーをなびかせながらこちらに向かって走ってくる、そして目の前で止まった。

蒼牙「緑のライダー？」

しかし

ウィジャア「黒のライダー？」

と言っ。

龍一「黒？」

アイリ「いや……緑よね？」

????「その会話は飽きた。」

そう、それは緑と黒の色で分けられたライダーだった。

????「俺は・・・いや、俺たちは仮面ライダーW。」

仮面ライダーWはバイクから降り、指を指す。

W「さあ、お前達の罪を数えろ。(さあ、お前達の罪を数えろ。)

ヒートロン「お前達は本部に戻れ、こいつは俺1人で十分だ。」

ウォルター「はいはい。」

四大悪魔の三人は本部に戻る、ヒートロンとWが向き合う。

W「お前達さつさと行きな、ここでぐずぐずしてらんないだろ。」

蒼牙「あ、ありがとう!」

三人は本部に向かう。

ヒートロン「貴様ら!」

ヒートロンは三人に攻撃を仕掛けるが

「ルナ! トリガー!」

サウンドと共にWは黄色と青の姿になりトリガーマグナムでヒートロンの攻撃を止める。

ヒートロン「この!」

W「へん。」

Wはベルトのメモリを変えた。

「ヒート！！メタル！！」

次にWは赤と灰色の姿になりメタルシャフトでヒートロンの攻撃を受け止め反撃する。

ヒートロン「ぐふ！？バカな・・・」

「サイクロン！！ジョーカー！！」

そしてWは元々の色に戻り黒のメモリを横のスロットに入れた。

「ジョーカー！！マキシマムドライブ！！」

Wは風に乗り上昇しキツクの体制をとるとなんと真つ二つに割れた。

W「ジョーカーエクストリーム！！」

キツクの2連撃でヒートロンは吹き飛ばされた。

ヒートロン「ぎゃああああ！！？」

ヒートロンは爆散した。

W「ふう、さあて行くか。（翔太郎？何でここで戦いがあるかわかったんだい？）いや、探偵の勘だな・・・頑張れよう、仮面ライダー

「ヤイバ。」

.....

蒼牙「はあはあ、あつ!?!」

蒼牙は疲労からか転んでしまった。

龍「蒼牙!?!」

アイリ「まずいわ、こんな廊下の一方通行で誰かが来たら.....」

「さぞかしまずいわよねえ?」

龍「ラッ、ライトン!?!」

ライトン「うふふ、死んでね?」

アイリ「どうしよう.....」

するとアイリの足に何かがぶつかった。

アイリ「ん?」

赤いメダルだ、すると男がこちらに向かって走ってきた。

????「ああ、ありがとっそれ俺のなんだ。」

アイリ「え、ああ。」

アイリは????にメダルを渡す。

ライトン「誰あなた？」

????「君たちは先に行つて、ここは俺が何とかするからさ。」

すると????は赤と緑と黄色のメダルをつけていたベルトにはめ込みスキャナーで読み込ませた。

????「変身!!」

「タカ!!トラ!!バッタ!!タ・ト・バ!!タトバ!!タ・ト・バ!!」

謎の歌と共に????はライダーに変身した。

ライトン「なつ、何!?あんたは!?!」

????「オーズ、仮面ライダーオーズ。」

蒼牙「オーズ？」

龍一「2色の次は3色か。」

オーズ「さ、早く行つて。」

アイリ「ええ、助かったわ。」

三人は奥に進んでいく。

ライトン「よくも邪魔したわね、死になさい!!」

ライトンは雷を飛ばしてくるがオーズはそれをかわし打撃を与えていく。

ライトン「きゃっ!? やったわね!？」

ライトンは雷を素早く飛ばしてきた、するとオーズは二枚の黄色のメダルをはめ込みスキャナーで読み込ませた。

「ライオン!! トラ!! チーター!! ラタラタ!! ラトラタ!!」

するとオーズは黄色の姿となり俊敏に動き雷をかわしトラクローで斬りつけた。

ライトン「いやあ!？」

オーズは再びスキャナーでメダルを読み込ませた。

「スキャニングチャージ!!」

オーズの目の前に3つの黄色のエネルギーが並びオーズはそれに突っ込みながら最大の攻撃をライトンに与えた。

オーズ「せいやあああああ!!」

ライトン「あああああ!!」

ライトンは爆散した。

.....

アイリ「ここよー!!ここから近道よー!!」

しかしそこにはウイジャアが待ち構えていた。

ウイジャア「通さないぞ。」

龍「ちっ、面倒な・・・」

するとある音声が響いた。

「キラー!!」

K A M E N R I D E R Y A I B A

n e x t e p i s o d e
...

EP22 首領とタクヤ（後書き）

次回、仮面ライダーヤイバ！！

蒼牙「ありがとう！！助かったよ！！」

????「仮は返したぜ。」

龍一「ここは俺がやる。」

蒼牙「タクヤ！！戻ってきてくれ！！」

EP23 和解そして別れ

EP23 和解そして別れ（前書き）

仮面ライダーヤイバ！！前回のあらすじ

ヤイバ達はプロト本部に突入したがシャイバは裏切りヤイバ達を本部から追い出す！

ヤイバ達の前に四大悪魔が立ちふさがる、しかし謎の仮面ライダー、W、オーズのおかげで無事に再びプロト本部に突入する事ができた！！

EP23 和解そして別れ

「キラー!!!」

????? 「変身!!!」

聞き覚えのあるサウンド、蒼牙は気づいた。

蒼牙「夢原さん!!!」

キラー「よお、久しぶり。」

そう、かつて共同戦線を繰り広げた夢原信者、仮面ライダーキラーだ。

龍「何で・・・ここに？」

キラー「借りがあるからな、アイリこれ。」

アイリ「あれ？これはたしかプリキュアになるための・・・」

キラー「この世界じゃ使えないみたいだけど御守りだ、持っとけ。」

キラーはディリーモードをアイリに手渡し戦闘にうつる。

ウイジャア「何だお前!？」

キラー「断罪者キラー!!! 裁きをつけるがいい!!!」

ウイジャア「こしやくな!!」

ウイジャアは突風を起こすがキラーはキラーマグナムでマキシマムドライブを発動させ突風を防ぐ。

ウイジャア「防いだだと!？」

キラー「行くぞ!!!」

キラーはマグナムを撃ちながら接近、マグナムを放り投げ蹴り技をウイジャアに叩き込む、ウイジャアは反撃するがジャンプでかわし放り投げたキラーマグナムを手に取り空中回転しながらウイジャアにマグナムを撃ち込む。

ウイジャア「ぐお!？」

キラー「急げ蒼牙!!」

蒼牙「ありがとう夢原さん!!」

「キラー!!!マキシマムドライブ!!!」

キラー「借りは返したぜ!!!キラールヘルグランド!!!」

ウイジャア「ぬおおおおお!!?」

ウイジャアは爆散した。

.....

やっと先ほどの場所までやって来たがウォルターが待ち構えていた。

ウォルター「・・・通さない。」

蒼牙「あともう少しなのに・・・」

龍一「蒼牙、アイリ・・・先に行け。」

アイリ「龍一!？」

蒼牙「お前、まだ怪我が・・・」

龍一「こんなにかすり傷だよ、早く行け。」

蒼牙「・・・わかった、行こうアイリ。」

アイリ「え、ええ。」

2人はタクヤとマダラの場所に向かった。

龍一「変身。」

ウォルター「ほう、お前が相手か・・・勝てるかな?」

ケン「さっきみたいには行かないぜ、水野郎。」

・・・

蒼牙達はついに戻ってきた。

アイリ「やつときた。」

蒼牙「カプセルから紗耶香が消えてる……」

アイリ「本当だわ……!!、あれって……」

そこにはタクヤがいた。

蒼牙「タクヤ!?!」

タクヤ「蒼牙……待ってたぞ。」

蒼牙「タクヤ……もうやめてくれ!!」

タクヤ「言つたろう、俺はタクヤではない……変身。」

「change SYAIBA!!」

タクヤは仮面ライダーシャイバになり戦いの体制にはいる。

アイリ「蒼牙……」

蒼牙「……変身。」

「change YAIBA!!」

蒼牙はヤイバに変身した。

ヤイバ「君がどうしても戦うなら俺は……」

シャイバ「来い。」

ヤイバとシャイバは剣を捨て、互いに向かって走り出した。

ヤイバ「うおおお!!」

シャイバ「はあああ!!」

2人は互いに殴り合う、殴る度両者から血が飛び出る。

ヤイバ「くっ!?!うお!!」

シャイバ「がはっ!?!はあ!!」

互いにひるまず殴り続けるヤイバとシャイバ。

アイリ（2人共・・・え？）

・・・

一方ウォルターとケンは互角に戦っていた。

ウォルター「さつきよりはやるなあ。」

ケン「さつきは疲れてたからな!!」

ケンの攻撃力は先ほどより上がっていたためウォルターもひるむがウォルターは大量の水のビームを放つ。

ケン「くっ!?!またかよ!?!」

ウォルター「早くしないとさつきと同じになるよ!!」

ケンは炎、ウォルターは水、明らかケンの不利だったが

ケン「へっ!・・・水が炎より強いなら・・・」

ケンはベルトのリングを放り投げた。

ケン「炎を水より強くしてやるぜ!!」

放り投げたリングに龍が宿りメダルとなりベルトに装着しケンはドラゴニカフォームになった。

ケン「はああああ!!」

ケンの拳に凄まじい力が集まる。

ケン「だああああ!!」

拳を突き出すと炎が水を蒸発しながら突き進んでいく。

ウォルター「なっ、何!?!」

ケン「いつけえええええ!!」

炎はついに水をすべて蒸発させウォルターに直撃した。

ウォルター「なっ!?!?体が・・・体が蒸発していく!?!」

お互い変身が解けたが止まらず殴り続ける。

蒼牙「うあー!!うあああ!!」

タクヤ「ぐあー!!うおお!!」

アイリ「2人共・・・泣いてる?」

そう、2人は涙を流しながら殴り合っていた。

蒼牙「うおおおおおお!!」

タクヤ「はああああ!!」

互いの拳は顔面を直撃、血を口から吹き出し倒れこんだ。

アイリ「蒼牙!!タクヤ!!」

龍一「アイリ!!」

龍一はアイリの所に来た。

アイリ「龍一!!2人が!!」

その時タクヤが身を起こした。

タクヤ「くっ・・・うっ・・・」

龍一「てめえ!!」

アイリ「やめて龍一!!」

龍一はタクヤを殴ろうとしたがアイリが止める。

タクヤ「何だよ・・・何で止めるんだよ?」

アイリ「蒼牙はあなたを信じてた!!だから私はあなたを傷つけさせない!!それが蒼牙ののぞんだ事だから!!」

すると

「・・・死んだみたいに・・・言うな・・・」

アイリ「え?」

龍一「蒼牙!?!」

蒼牙は生きていた、そしてなんとか身を起こす。

タクヤ「やっぱり・・・しぶといな・・・」

蒼牙「お互いに・・・な?」

アイリ「良かった・・・私、死んじゃったんじゃないかって・・・
ぐすつ。」

アイリはすこし泣いていた。

龍一「たく、心配させやがって・・・で?どうするんだ?」

蒼牙「タクヤ……一緒に行こう、そしてプロトを倒そう。」

タクヤ「……へへ。」

タクヤは微笑んだ、しかし

タクヤ「それは無理みたいだ。」

「え？」

タクヤは急に倒れこんだ、蒼牙は慌ててタクヤの身を抱えた。

タクヤ「力を失った……これで俺は消える。」

蒼牙「どっ、どっという事だよ!？」

アイリ「まさか……シャイバのスパーカーを破壊したから？」

龍一「スパーカーがタクヤの体を保たせる装置だったって事か!？」

蒼牙「そんな……嫌だよタクヤ!!タクヤ!!」

するとタクヤは蒼牙の手を握る。

タクヤ「ありがとうよ……これで首領復活はまぬがれたし……

それに……」

タクヤの体が砂のように消滅していく。

「!?!」

タクヤ「お前のおかげで俺は・・・タクヤとして存在できた・・・
礼を言う・・・ぜ・・・」

そしてタクヤの体は完全に消滅した。

蒼牙「タクヤアアアアアアアア!!」

.....

マダラ「くそ!!」

マダラは壁を殴り穴を開けた。

マダラ「奴め・・・最初からこれが目的か!?!?・・・まあ良い、奥
の手だ・・・」

.....

蒼牙達はついにプロト本部最深部へ来た。

アイリ「蒼牙、言っておくけどヤイバスパーカーはあくまでも応急
処置だから・・・変身状態は15分が限度よ?」

龍「俺も長くは持たないかしんないぜ?」

蒼牙はタクヤのシャイバスパーカーを握りしめていた。

蒼牙「行くぞ。」

n
e
x
t

e
p
i
s
o
d
e
...

K
A
M
E
N

R
I
D
E
R

Y
A
I
B
A

EP23 和解そして別れ（後書き）

次回、仮面ライダーヤイバ！！

マダラ「これが奥の手だあああ！！」

ヤイバ「そんな！？」

ケン「まずいぞ！？」

アイリ「首領が・・・復活した・・・」

EP24 復活(前書き)

仮面ライダーヤイバ!!前回のあらすじ

タクヤは消えその思いを胸に蒼牙達は首領の復活を阻止するために
マダラのもとへ急ぐ!!

EP24 復活

蒼牙はタクヤの思いを胸にマダラのもとにたどり着いた、そこにはマダラと黒い衣装を着せられた紗耶香の体があった。

蒼牙「マダラ!!」

マダラ「ヤイバか・・・よく来たな。」

龍一「首領の手は無くなった!!」

アイリ「もう諦めなさい!!」

しかしマダラは不気味に笑う。

マダラ「はははは!!首領復活の手が無い?いつそんな事が決まった?」

蒼牙「え?」

アイリ「何を言ってる・・・」

マダラ「はああああ!!」

マダラの体から雷が発生した。

龍一「あれはヤイバの力!？」

アイリ「何で!？」

マダラ「ふははははははは！！貴様が今まで倒してきた怪人の亡骸にヤイバの力がたくわえられていてな、最終手段として俺の体に溜め込んでいたのだ！！」

蒼牙「そんな・・・」

マダラ「首領・・・今こそ復活を！！」

マダラは紗耶香の体に雷を流し込んだ。

アイリ「そんな・・・今までやってきた事は無駄だったの！？」

蒼牙「やめろおお！！」

蒼牙はマダラに向かって走り出すが雷に吹き飛ばされてしまった。

蒼牙「うわあ！？」

龍一「蒼牙！！」

龍一が蒼牙を受け止める、雷が止んだ。

アイリ「雷が止んだわ・・・」

すると紗耶香は目を開け身を起こし立ち上がった、その目は赤くなっていた。

蒼牙「紗耶香！！」

アイリ「首領が・・・復活した。」

マダラ「おお、首領！！よくぞ戻ってこられました・・・！？」

なんと首領はマダラの体を手で貫通させた。

首領『ご苦労だったなマダラ・・・もう用はない、死ぬ。』

マダラ「そんな・・・首領おお！！」

そして首領は手から黒い光を放ちマダラを消滅させた。

龍一「自分の仲間を！？」

アイリ「首領にとってマダラは・・・手駒だったんだわ。」

蒼牙「紗耶香！！わかるか？

蒼牙と龍一だ！！」

首領『残念だなあ、もうこの体は我がプロト首領の物だ、紗耶香などという人間ではない。』

アイリ「首領の復活・・・最悪だわ。」

龍一「だったら倒すまでだ！！」

蒼牙「やるしかない・・・」

「変身！！」

2人は変身し立ち向かう。

ヤイバ「はあ！！」

ケン「だあ!!」

2人は首領に殴りかかるが片手で受け止められた。

首領『ははは、この程度か。』

首領は2人を投げ飛ばし、黒い光を放つ。

ケン「まずい!？」

2人は何とかかわすが首領の追撃をくらってしまった。

ヤイバ「うわあああ!？」

ケン「ガハツ!？」

アイリ「蒼牙!!龍一!!」

首領『その程度の力で我に適うと思うか?』

ヤイバ「くそお!!」

ヤイバはサンスティックを使った。

「change SUN!!」

しかし

ヤイバ「くっ!?!うあああ!?!」

応急処置をしたヤイバスパーカーではその力に耐えられず変身が解除されてしまった。

蒼牙「そんな……」

そしてヤイバスパーカーは完全壊れてしまった。

ケン「まずい……おりゃあああ!?!」

ケンは最大威力のパンチを繰り出すも簡単にかわされ懷を蹴られてしまった。

ケン「!?!」

そして首領は手から爆発を起こしケンの変身を解除した。

龍「ああ……」

アイリ「そんな……」

首領『終わりだな。』

首領が手を掲げるとプロト本部は地震のようにゆれ崩れはじめた。

アイリ「私達を潰すつもり!?!」

気づいた時には首領の姿はなかった。

アイリ「きゃあああああああああ!?!」

.....

アイリ「・・・あれ？生きてる？」

気がつくとも三人は本部の瓦礫の少しあいている空間にいた。

龍一「うう・・・？」

蒼牙「あ・・・あれ？」

アイリ「どういう事？・・・ってこれは！？」

そう三人はマゼンタ色のバリアに包まれていた。

龍一「これってー！！」

アイリ「デイリーモード・・・こんな所で私達を守ってくれた。」

キラーから御守りとして受け取ったデイリーモードが三人を守ってくれたのだ。

.....

蒼牙達は瓦礫から脱出した。

龍一「首領がいないなあ。」

蒼牙「アイリ、何かわかる？」

アイリ「・・・悪魔で予想だけど、首領は復活してまだ間もない、

紗耶香さんの体が首領の力に耐えられるかもわからない、多分あそこ。」

アイリは不気味な山を指差す。

蒼牙「あそこは？」

アイリ「大昔のヤイバが首領と戦ったところ、首領は魂だけにされる寸前にあそこに何かをしたみたい・・・それが何かはわからないけど。」

龍「まあ恐らく紗耶香の体を強化するんだろうな、完全に自分の物にするために。」

蒼牙「そうはさせない、行こう。」

アイリ「わかったわ。」

しかし

蒼牙「アイリはダメだ。」

アイリ「はあ？なっ、何でよ！？」

蒼牙「ここからは危険なんだ、俺達が行く。」

アイリ「危険なんてこれまでに何回もあったじゃない！！何で今さら・・・。」

すると蒼牙は

蒼牙「君を・・・失いたくない。」

アイリ「え？」

蒼牙の思いがけない言葉に呆然とするアイリ。

蒼牙「君がいたから俺はここまで来れた、改造人間である事も受け入れられた・・・」

龍一は空気を読みそつと後ろを向く。

アイリ「蒼・・・牙？」

蒼牙「正直自分と向き合えなかった、でも・・・今なら向き合えるんだ・・・だから!!」

蒼牙はアイリの肩にそつと手を置く。

蒼牙「必ず帰ってくる、だから・・・帰ってきたら・・・これから俺と一緒に暮らしてくれないか？」

アイリ「!!!」

龍一は静かに口笛を吹いた。

アイリ「・・・帰ってこなかったら、承知しないから。」

蒼牙「わかってる。」

2人はそつと口づけをかわした。

.....

龍一「準備は良いか？新郎さん。」

蒼牙「そんな言い方よせ、行くぞ!!!」

2人はバイクを走らせ最終決戦に向かった。

K A M E N R I D E R Y A I B A

n e x t e p i s o d e
...

EP24 復活（後書き）

次回、仮面ライダーヤイバ！！最終回

蒼牙「首領！！決着だ！！」

首領「死になさい！！」

EPfinal 約束

final EP 約束

蒼牙達は首領がいると思われる山へバイクを走らせる。

龍一「・・・怖いかな？」

蒼牙「何だよ・・・急に。」

龍一「いや、もしかしたら約束守れないかもしれないんだぜ？」

蒼牙「それはない。」

龍一「どうして？」

蒼牙「必ず守るから。」

龍一「お前らしいや。」

そうしている間に蒼牙達は山へたどり着いた。

蒼牙「ここに首領が・・・」

龍一「おそろくな。」

2人は山の中に入っていく、何も無いが確かに邪悪な気配を感じる。

龍一「間違いなさそうだな。」

蒼牙「首領はここにいる。」

その時プロト怪人が現れ行く手を阻む。

怪人「ここから先は通さん。」

龍一「蒼牙、ここはまかせて行け。」

蒼牙「わかった。」

龍一「変身!!」

龍一は変身し怪人を倒して行く。

蒼牙「まかせたぜ!!」

.....

蒼牙は山頂に行き着くとそこには首領がいた。

蒼牙「首領!!」

首領『貴様か・・・何しにきた?』

蒼牙「お前を倒す。」

首領『お笑いだな、ヤイバの力の無い貴様に何ができる?』

蒼牙「さあな、だがまだその体に慣れていないお前とならいけないんじゃないか?」

首領は凶星だったようだ、すこし戸惑って

いた。

首領『まあ・・・良い、この山に来れば・・・』

蒼牙「ここに何があるか教える。」

首領『知らないか・・・ここはかつて我がヤイバに敗れた場所・・・しかしここには不思議な力があり百年に一度願いが叶うという伝説がある。』

蒼牙「まさかその力で紗耶香の体を完全に自分の体にするつもりか！？」

首領『ここまで知ればもう十分だろ、死ね。』

首領は蒼牙に襲いかかってきた。

蒼牙「ぐふっ！？」

首領『その力は力のある者に宿るといふ、まさに私の事。』

首領は立て続けに蒼牙に攻撃を仕掛ける。

蒼牙「ぐっ！？うあ！？」

首領『はははは！！さあ、最期に残す言葉は何だ？』

首領は倒れ込んだ蒼牙に足をのせ力を加える。

蒼牙「へへ・・・お前は力を・・・手に入れる事は無理だ。」

首領『はあ？何を根拠に。』

蒼牙「力にはヤイバとか首領とか関係ない。」

首領『我に力が無いと言うのか？人間風情が。』

首領はさらに力を加える。

蒼牙「ぐっ！？……そうだ、お前には……守りたいものがない。」

首領『？』

蒼牙「大切な人や物……それを命を賭けてでも……守りぬこう
という思い……それが力だ。」

首領『下らない、そんなものは弱者の言う事だ！！』

首領は蒼牙を蹴りつける。

蒼牙「ぐあああ！？……くっ、確かに人間は弱い、だけど人間は
手と手を取りあい協力する事ができる、自分の仲間を……ゴミの
ように捨てるお前には、とつていわからない、お前は力を持つ事は
出来ない！！」

その時、蒼牙の持っているタクヤの壊れたシャイバスパーカーが輝
きだした。

首領『なっ！？この光は……』

蒼牙「まさか・・・奇跡の光!？」

シャイバスパーカーは輝きと共にヤイバスパーカーに変わりそして見たことのないステイックがついていた。

首領『馬鹿な!？何故・・・何故貴様に奇跡の光が!？』

蒼牙「これは・・・」

すると蒼牙は気配を感じ後ろを振り向くと灰色のオーロラが現れ、そこからマゼンタ色のライダー、ディケイドが現れた。

ディケイド「この世界を救えるのは・・・お前だけだ。」

蒼牙「あれは・・・」

すると再びオーロラが現れそこからディケイドを含め13人のライダーが現れた。

クウガ「立ち上がれ!!」

アギト「約束を守るために!!」

龍騎「よっしゃ!!頑張れ!!」

555「諦めんなよ。」

ブレイド「俺達がついてる!!」

響鬼「青年、彼女が待つてるよ、シュツ!!」

カブト「おばあちゃんが言っていた、男が諦めて良いのは寿命を迎える時だけだつてな。」

電王「諦めたら承知しねえぞ!!」

キバ「あなたなら、きっと出来ます。」

W「さあ（首領に罪を数えさせるんだ。）。」

G「愛する人のもとへ帰るために。」

オーズ「頑張れ!!」

「仮面ライダーヤイバ!!」

蒼牙「!!!!・・・行くぞ。」

蒼牙はバツクルを装着した。

蒼牙「変身!!」

「change lightning!!」

すると蒼牙の体は見たことのないヤイバに変身した。

首領「何だ・・・あれは!?!」

ヤイバ「これは、ヤイバだけじゃない・・・タクヤ!?!」

そう仮面ライダーヤイバ・ライトニングモードはヤイバとシャイバの力が組み合わさった最強のヤイバだ。

首領『許さん、よくも私の奇跡の光をおおお！！』

首領は殴りかかるがヤイバは片手で受け止め溝に蹴りをいれ後退させる。

首領『ぬう！？』

ヤイバ「この光はお前のじゃない・・・どんな困難にぶつかっても決して諦めない心の持ち主みんなの物だ！！」

ヤイバは雷の剣を生み出し斬りつける。

首領『ぐほお！？』

ヤイバ「行くぞ、これで最後だ！！」

ヤイバはバツクルを閉じ再び開いた。

「lightning charge！！」

雷の剣はヤイバの足にエネルギーとなり集まった。

ヤイバ「はああああああああああああ！！」

ヤイバは飛び上がり両足突き出す。

ヤイバ「（行くぞタクヤ！！）ライダーダブルキイイイック！！」

首領『死ねえええ！！！！』

首領は黒い光線を放ち対抗する、お互いの技がぶつかり合う。

ヤイバ「くっ……うう……」

首領『我は負けん、たった一人の人間に敗北などありえん！！』

ヤイバ「おれは一人じゃない……龍一、榊原さん、タクヤそしてアイリがいる！！！！」

ヤイバの技はついに光線を貫き首領に直撃した。

首領『！！！！……良いのか？私を殺せば生きてるかもしれない紗耶香が……』

ヤイバ「……紗耶香は死んだ……そして紗耶香は人を恨み、見下す事のない優しい人間だ！！俺は、過去を断ち切る！！！！」

首領『ぐほお！？ヴアアアアアア！？』

ヤイバは首領の体を貫き消滅した。

……

「お……牙、おい……、蒼牙！！！！」

蒼牙「ハッ！？」

蒼牙は気を失っていた、気づけば病院にいた。

蒼牙「あれ？榊原さん！？ここは！？」

榊原「龍一が倒れてたお前をかついで運んできたんだ。」

「そゆこと。」

蒼牙「龍一。」

龍一「ついにやったんだな、蒼牙。」

蒼牙「ああ、アイリは？」

榊原「屋上だ、行ってやれ。」

.....

アイリは病院の屋上で風に当たっていた。

蒼牙「アイリ！！」

アイリ「蒼牙！！・・・もう大丈夫なの？」

蒼牙「ああ、約束・・・守れたかな？」

アイリ「え・・・と、うん。」

2人は顔を赤らめていた。

蒼牙「あの……さ。」

アイリ「？」

蒼牙「返事というか……君の気持ちというか……教えてくれるかな？」

アイリ「え！？いや……その……」

アイリは口ごもっていた。

蒼牙「アイリ？」

アイリ「はあ、私も自分と向き合わないとね。」

蒼牙「？」

アイリ「私も……ずっと、いつ言えは分からなかった……今なら……」

蒼牙「……」

アイリ「私も……あなたが……」

final EP 約束（後書き）

次作予告！！

仮面ライダー×仮面ライダー ヤイバ&オーズ movie
大戦space

無事、仮面ライダーヤイバを完結できました、沢山の応援ありがとうございました、ありがとうございました、そしてmovie大戦ご期待ください、すこしくロスオーバー物語を進めます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0110p/>

仮面ライダーヤイバ

2011年2月12日20時54分発行